

阪神・淡路大震災から 学校再開に向けて



神戸市立神港高等学校

避難者対策委員会
震災対策委員会

目 次

1. 巻頭言（学校長）	-----	P. 1
2. まとめに寄せて（福尾前校長）	-----	P. 2～3
3. 震災後の主な経過	-----	P. 4～5
4. 「復興への日々」	1/17～18 -----	P. 6～7
	1/19 -----	P. 8
	1/20 -----	P. 9～10
	1/21 -----	P. 11
	1/22～23 -----	P. 12
	1/24～27 -----	P. 13～17
	1/28 -----	P. 18
	1/29 -----	P. 19
	1/30 -----	P. 20
	1/31 -----	P. 21～25
	2/1 ～ 2 -----	P. 26
	2/3 ～ 5 -----	P. 27
	2/6 -----	P. 28～30
	2/7 ～17 -----	P. 31～33
	2/20～28（卒業式へむけて）	P. 34～37
	3/1 ～15 -----	P. 38～40
	3/19 （神港炊き出し作戦）	P. 41
5. 震災後の本校の現状と今後の見通し(3/20)－		P. 42
6. 緊急医務室報告	-----	P. 43～47
7. 被災状況調査(2/23)	-----	P. 48～51
8. 被災状況調査(4/10)	-----	P. 52～55
9. 震災対策委員会概要	-----	P. 56～57
10. 今後の避難対策	-----	P. 58～59
11. 同窓会報より	-----	P. 60
12. 震災に負けずに頑張っている学び舎	----	P. 61
13. 防災組織表	-----	P. 62
14. 緊急防災組織表	-----	P. 63
15. 本校及び避難所への支援者	-----	P. 64

神戸大学人社系図



00098115815

巻頭言

学校長 山田 隆

あの忌まわしい阪神淡路大震災から、早6ヶ月が経過しました。長かったようでもあり短かったようにも思えます。

本校にも犠牲者が出ました。将来を展望し、希望に燃えて入学しながら青雲の志半ばに貴い命を奪われた商業科一年の梁取由香さんの無念さを思うとき、沈痛の念極まれりであります。彼女の意志を継いでクラスメートが、学年が、意義ある学園生活を送って欲しいものです。

貴い多くの命と物をなくしてしまいました。再び蘇ることのない余りにも大きすぎる痛手であります。

あの濃い緑の山々、色鮮やかな港の海、一度は住んでみたい、訪ねてみたい街神戸を標榜して街づくりを推進してきましたが、壊滅的な打撃で頓挫してしまいました。

より早い復興で、コンベンション、ファッション、スポーツ、アーバンリゾート都市が待たれるところであります。

今回失くしたものは測り知れません。しかし、得たものも大であります。

この震災を通して私達は、大自然の脅威と人力の空しさを肌で感じさせられました。しかし、人のこころは回復いたしました。家族の絆、地域の連帯、災害に備える心構え、危機管理の態勢と数えあげればきりがありません。マイナス分を凌駕して、この生きた教訓を糧にしてプラスに変換しなければなりません。

しかし、現実を見ますと、極めて厳しいものがあります。実験実習ができない、体育実技ができない、全校集会ができない。

本来伸び伸びした学校生活を生徒達は切望しているに違いありません。不自由を言動に出さずに明るく振る舞ってくれている姿を見るにつけ、ほんと安心はするものの、なんとか一刻も早い復旧を痛感いたします。その意味でも、BEAUTIFUL, BRIGHT, BRILLIANT の3Bを提唱するわけです。

早い復旧を、とは言ったものの、それだけでわが神港の将来があるのかを考えると、一抹の不安がよぎります。近隣の県立高校に比して遜色の無い立派な学校に復興しなければなりません。一方、少子化の波は拭えず生徒減は必至であります。第二学区として在るべき姿を見据え、理想の市立高校実現に向けて邁進しなければなりません。

終わりに当たり、避難住民の方々と長期にわたって拘って下さいました教職員の方々、そして、この集録編集にご尽力いただきました関係の各位に深甚の謝意を表し巻頭のことばといたします。



まとめに寄せて

前神港高等学校校長 福尾 康之

このたび、神港高校から、今回の大震災への学校としての経過をまとめるので一文を寄せるようにとの連絡を受けました。しかし、この要請に応えることは、私としてはいささか気が重いことです。というのは、今回の大地震がもたらした諸々の出来事が余りにも大きくかつ強烈だったので、情けないことですが、昂ぶるであろう感情をおさえて冷静に語ることが未だにできないでいるのです。それともうひとつは、当時の責任者であった私が現在も大変な忍従を強いられておられる先生方や神港生の前にもういないという後ろめたさがあるからです。

しかし、ここでその償いの気持ちと、今一度、当時献身的なご苦勞をいただいた方々に感謝の意を表する機会を与えられたものと思い、心に残っていることなどを断片的に順不同で記させていただきます。

1. 何といっても、つい思い出すことは、神港生1名と、3名の先生のご家族が、6千人にのぼる犠牲者の中に含まれていたという大変悲しい出来事です。お母さんと一緒に亡くなられた梁取さんのお父さんが会葬者への挨拶で、「こんな悲しいことはありません。」と言って絶句されたときは、全員涙しました。世の無常を感じると共に、自分の今後の生き方についても考えさせられました。

2. 次に、地震直後から、いろいろな関わりで悩まされたり助けられたりして、今も頭の片隅から離れないものに、マスコミの功罪があります。

地震当日は、続々つめかけてくる避難者への対応、急病人の医療機関への連絡や搬送、夜が更けるにつれ、火の手が次第に迫ってくる中、800人を越す避難者の更なる避難対策と、矢つぎばやの対応に追われ続けました。幸いどうにか類焼を免れ、夜が明ける頃、初めての弁当が届いたので、昨日から飲まず食わずだった避難者に配ることになりました。そこで、中庭に机を出し、5列に並んでもらいました。そして整然と弁当を配ることができましたが、不眠不休の疲れた身体に鞭打ちながらきばきと適切な指示をして、この場を見事に乗り切った本校職員の方々、それに、何人もの人が手を合わせながら弁当を受け取っていく姿が、今も目に焼き付いて離れません。これは日頃生徒を指導している学校だからできたことであり、決して誰にでもできるといったものではないと確信しています。このことが、以後の学校と避難者との関係を決定づけ、食料や物資の配布がさして混乱なくできた理由の一つではないかと思います。それから、何か予期せぬ事が起こった時には初動がいかに大切であるかのよい見本だと思います。

ところで、この時、たまたま火災の現場取材にきていたある放送局のカメラマンが、弁当の配布の状況も撮影していましたが、テレビでは、避難者のうちたった1人が、思い違いから本校職員に文句をつけているところだけを放映した上、避難者に対応している先生は素人だから避難所が混乱しているといったようなコメントまで入っていたので、みんな大変憤慨しました。そこで私は早速ディレクターをよんで厳しく注意しましたが、マスコミでは、編集者の意図で真実がいと簡単に歪曲されてしまうことを改めて認識しました。

最近の報道でも、どうも釈然としないものがあります。それは学校が避難所になっていることを8月20日をもって原則的に解消するとの方針が当局により打ち出されたことに對するもので、マスコミ全般の報道の視点が、もっぱら避難者の側からのみに終始した余りにも一面的なものであるということです。確かに個々人の避難者の方にはそれなりの事情があることは承知していますが、一方では、学校における教育活動がいかに大切であるかということ、全国の生徒に互に互に力をつけるだけの力をつけることの必要性などが完全に抜け落ちているように思われます。

しかし、マスコミは利用の仕方によってはとても役に立つということも分かりました。地元のテレビ局は生徒への連絡にとっても協力してくれましたし、又ある局は何か必要なものはないかとわざわざ尋ねてくれ、灯油とストーブがなくて困っていると伝えたところ、その翌日にはもう大量のものが、ある団体から届けられ、大いに助かりました。

3. 学校にとって最も大切なことである授業の再開に向けての取り組みは、実に大変でした。

まず生徒の安否と所在の確認が第一と、まだ全員の先生が揃わない中で、避難者への対応に回ってもらう先生を除いた方々で手分けして行われました。自宅が壊れている先生も夜遅くまで足を棒にして生徒宅やあちこちに点在する避難所を回っていただきましたが、さぞわが子と思う気持ちに似たものだったことでしょう。

生徒への連絡が大体つくようになって、神戸電鉄が不通の中、とりえず学校の状況や今後の見通しなどを連絡するために本校と兵商に分けて生徒を召集しましたが、予想以上に多くの生徒が登校したのでほっとしたことを覚えています。

この状況に勇気を得て、神鉄が長田駅まで開通した段階で、変則ながら授業を再開しましたが、倒壊危険校舎の解体工事のため授業中断のやむなきにいたり、誠にやりきれない思いでした。

また、地震による損傷を受けた校舎等の使用可否についての市教委の通知が二転三転し授業に課なりの支障が出たことは残念でした。多くの専門家が何回も調査に訪れながら肝心な点での決断が下されなかったことに大しては、怒りを通り越して、諦めに似た境地になりました。

その他、授業再開について議論した際、通学路の安全性が云々されましたが、危険一杯のこの世の中で、危険を予測して避ける能力を身につけさせる指導をする良い機会としてとらえる議論がなかったことに不思議さを感じました。

4. 学校が、避難所としての果たすべき役割については、今後の議論を待たなければならぬでしょう。とにかく学校は、現実には長期間にわたって多くの避難者を受け入れ、計り知れないほどの貢献をしてきたといえるでしょう。関係機関はもとより、多方面から感謝されもしています。しかし、念を押しておきたいことは、今回やってきたことは全く人道的な立場からであるということです。なぜなら、学校は避難所としての機能も性格も何一つ備えていませんでした。緊急避難という従来想定されてきた避難所の概念を完全に越えた行為を黙々とやってきたのです。

本校でも次々に湧き出てくる全く新しい問題に、その場その場で即時に対処していかなければなりません。ただ幸いなことは、前にも申しましたように学校と避難者との関係が初めからうまくいきましたし、先生方の適切な指導によって避難者の自治組織も育っていきました。卒業式を、避難場所となっている本校体育館で、教職員と生徒全員が力を合わせ、避難者の協力を得て成し遂げられたことは長く語り継がれることでしょう。

また、避難者の中に本校の卒業生が何人かいて、当初、水も出ない便所の処理を率先してやってくれた姿は忘れられないものとなると共に、本校はやっぱり地元の学校であり、この会下山から離れられないなと思いました。

またまだ、思い起こせばボランティアのことや、炊き出しなど各地からの温かい物的、人的支援のことなどいろいろと思い出されますが、どうもよくまとまりません。

そして、教職員の皆さん方に多大のご迷惑をおかけしたにもかかわらず、いろいろとお助けいただいたことに、心より厚く御礼申し上げ、駄文を終えることとします。

有難うございました。



震災から学校再開にむけて

震災から早半年が過ぎました。その間、本校でも様々な状況下で避難者の皆さんや、生徒達が生活を送ってきましたが、教職員も全力で学校再開に向けて取り組んできました。

まだまだ多くの問題が残されていますが、震災から3月末までの経過を中心に学校日誌に基づいてまとめてみました。又多くの教職員・生徒の作文も随所に掲載しています。この激動の半年をじっくり振り返ってみたいと思います。

震災後の主な経過

四都市立高等学校生徒指導連絡協議会発表より（内田先生）

日曜	1	月
12(木)	16(月) 2年修学旅行(スキー)	
17(火)	5:46 大震災(800~900名の避難者)	
18(水)		
19(木)	職員会議	
20(金)	生徒ボランティア数名活動開始	電気復旧
21(土)	避難所回り(安否確認)	京大医療チーム診療 仮設トイレ2個設置
22(日)		岡山赤十字医療チーム(8名1チーム、2交替制)
23(月)	職員会議 生徒ボランティア募集	市内小中高再開 うどん炊き出し 柔道整復来校
24(火)	生徒ボランティア組織	避難者名簿作成(避難者約500名)
25(水)		豚汁炊き出し
26(木)		宮城県自衛隊医療チーム 豚汁炊き出し
27(金)	生徒ボランティア班分け	ぜんざい・さつま汁炊き出し
28(土)	職員・避難者ボランティア打ち合わせ(学校再開に向けて)	仮設トイレ3個追加(計9個)京大自転車部バンク修理
29(日)		うどん炊き出し
30(月)	職員・避難者ボランティア打ち合わせ	JR須磨~神戸開通
31(火)	職員会議(生徒登校に向けて) たたみ移動	

2 月		3 月	
1水	たたみ移動、避難者を体育館棟へ	1水	1・2年9:30登校 教室の机・イス移動
2木	生徒登校(13:00)今後の日程 本校と兵庫商(避難者約350名)	2木	↑
3金		3金	↑
4土	検査の結果 本館使用禁止	4土	↑ 学年末考査
5日	食堂に本部移設	5日	↑ 水道一時通水
6月	生徒登校(10:00)集会・作文・大掃除	6月	↓ グランド西半分に仮設校舎建設開始 (水道管多数破裂の為再停止)
7火	授業開始(40×3)南館のみ使用 神鉄長田まで開通 2部授業(2年10:00~ 1年13:00~)	7火	部活動再開(生徒ボランティア実質解散)
8水	↑	8水	
9木	職員会議 中館解体工事	9木	
10金	↑ の為授業中止	10金	
11土	↑ 阪神御影まで開通	11土	
12日	↓	12日	
13月	情報処理科推薦入試	13月	進級認定会議 神港高通水
14火	授業再開(2部授業)10:00~ 13:00~ 生徒ボランティア解散	14火	阪急三宮~王子公園開通
15水	1・2年とも10:00より40×3限 (1年 本館 2年 南館)	15水	生徒登校日 入試会場準備 日本赤十字医療団搬収
16木	断熱材400枚搬入 卒業認定・D科判定会議 地下鉄全線開通	16木	入学者選抜検査 地下鉄三宮・新長田停車
17金	3年登校日 (新長田・上沢・三宮は通過)	17金	
18土		18土	合否判定会議
19日		19日	神港職員炊き出し・交流会
20月		20月	終業式 合格発表 (避難者約250名)
21火			
22水	職員会議 全校集会(生徒に呼びかけ) (避難者約300名)		3/31(金) 地下鉄上沢駅停車
23木	考査時間割発表 卒業式に向けて係打ち合わせ		4/ 1(土) J R東海道線開通(灘~住吉)
24金			4/ 8(土) 山陽新幹線開通
25土	本館H R教室に断熱材搬入 本館の机・イスを南館へ移動		4/10(月) 始業式(本校グランド東半分)
26日	体育館避難者を本館へ移動(約200名)		入学式(神戸市立摩耶兵庫高等学校)
27月	卒業式予行・表彰式(1・2年代休) たたみ400枚搬入(運動部員)		4/11(火) ガス開通
28火	卒業式 本館から体育館へ避難者移動(1・2年登校)		

1月17日(火)

早朝5時46分に起こった大地震、前日寝つきがどうも悪く、午前4時すぎにやっと就寝した直後、ベッドで大きな揺れを感じた。体は何度も宙に浮き、上からは整理、洋服、鞆が倒れて、頭に軽い打撲を受ける。一瞬「天井が落下してきた。人間はこうして死んでしまうか」と思いながら揺れを感じ続けていた。しかし何とか鞆を押しのけて窓を開けてみた。外の風景は地獄だった。木造家屋は押し潰され、粉塵がもうもうと舞い上がり、一瞬暗黒の世界のように思えた。急いでドアを開け、外に出てみた。暗闇の中、あまりの風景に唖然とした。多くの人々が逃げ出し、助けを求める声。そんな中私達夫婦も着のみ着のまま、車へ急いだ。やや時間をおいて、近所の人々の安否の声や倒壊家屋から救助を求める声がしていた。私達は人命救助どころか、恐怖のあまり車で近くの公園に逃げるのがやっとだった。その後、約2時間ほど余震に怯えながら明るくなるのを待った。

7時過ぎ、やっと自宅に帰り、身支度を整え最低限必要なものを車に積み込み神港高校へと急いだ。自宅(中央区下山手通り)から湊川までの山手線は比較的被害は少なく思えた。しかし湊川以西に来ると、あまりの被害の大きさに驚くばかりで、この地震の大きさを再び感じさせられた。学校は中館に大きな被害があったが、思ったほどでもなく、一安心だった。その後、管理員の各務さんと話をした後、帰宅した。(この日数人の先生方も心配のあまり学校に来られている。)帰宅後、家の中の片付けと思いながらも、何から手をつけてよいかわからずただ呆然としていた。

夕刻になり、家の中にいるのも恐ろしく、車の中で休んでいたが、寒くもなり、「学校へ行ってみるか」と二人で歩きだした。学校へ行く途中松本通り辺りで火の手が上がっていたので大変だと思いながらもすぐ鎮火するだろうと考えながら黙々と歩いた。学校へ着いて愕然とした。それは何百人という地域の人々が体育館や本館一階廊下に避難をされ、暗闇の中、まさに戦場のような状態であった。また、松本通り5丁目付近の火の手は止まず、西へ西へと、拡大してきていた。学校では校長、教頭、事務長、山本、杉浦、西村、各務、そして私達二人が緊急時に備えて結果的に宿直をせざるを得なかった。その間に、火の手が猛烈な勢いで西へ進み、大きな爆音と共に火の粉が夜空に舞っていた。私は、「今、あの火の中に本校の生徒がいるのではないかと心を傷めながら、真っ赤な夜空をただ見ていた。しかなかった。

1月18日(水)

とうとう、夜中の1時過ぎには本校の東、数十メートルまで火の手が迫り、「学校が危ない」との状況下、校長を中心に話し合いが行われ、様々な意見があったが、最終的に本館教室の東側の窓が割れた時点で避難者に学校から西門の外へ逃げてもらうことに決定した。(避難していただく場所すらない状況なのだが)すぐに数人で体育館からグラウンド・西門への経路を確保した。その頃、消防隊の方々の努力が実り始め、新湊川から水を引くことに成功、やっと放水が始まった。

—【神戸市消防局予防課編集の「雪」より】—

---。火の手が延びる西には避難所の神港高校がある。ここは何が何でも守らねばならないという指示が飛ぶ。----豊富な水を求めて新湊川へ。会下山公園の裏手を神港高校までのホースラインを設定する。

「西側の兵庫高校に避難しようという意見が強く、お年寄りを多数抱えている私どもは判断に困っています」と神港高校の職員から避難者へのアドバイスを求められる。

---神港高校の体育館の中は真っ暗で、隣の人の顔すら全く見えなかった。しかし、人のざわめきから避難者でぎっしり埋まっていることを知った。「兵庫消防署です」かすれた声だが、大きな声ででた。----「眠れぬ夜をお過ごしでしょうが---」から、

「神港高校を死守いたします」まで一気にしゃべった。「消防さん、がんばってね」「頼むぞ。消防さん」励ましの言葉と拍手を背にして、高校を後にした。

ホースが延長されてきた。水圧も徐々に上がってきた。火災はまだ少し先にあり、飛び火もなさそうだ。-----18日0時。ようやく火勢と消防力が均衡する。延焼をくい止めるとその余勢で火災を鎮火させた。3時であった。

午前4時過ぎ、我々の心配も取り越し苦労に終わり、何とか学校の大惨事は免れることが出来たことに胸を撫で下ろした。私達二人もとらずに一旦帰宅し、車中で仮眠、夜が明けると再び学校へ向かった。

学校では避難者が増え続けていた。ガス・電気・水道というライフラインがすべてマヒした中、学校として何ができるのか――。

午前10時頃、昼食の弁当500食分が届き、子供、年寄りを中心に配布をしようとしたが、すでに昨日の早朝から食料のない状態が続いており、配布方法で不満者もあり、少し騒然となった。その状況がTBS報道で全国へ流される。我々としても精一杯努力したが、避難者の方々も平常心の状態に程遠く、私達にも精神的余裕もなくトラブルが起こったものと考えられる。

夕方にはカンバンが届いたが避難者の空腹を満足させることはできないものだった。電気のない暗闇の中、校長室、事務室でロウソクの火を頼りに数人の教職員が避難者、面会者への対応に追われた。

生徒の作文より

「私の目にした光景」[2/6 作文]

神戸市立神港高等学校 八木 優子

つい前日まで、修学旅行の電車の中だったのが、私の中で見違えるほど状況が変わった。

「ドーン」と一人で寝ていた部屋が響き渡った。その瞬間、私はすぐに目を覚まし辺りを見回した。すると今まで体験したことのない、遊園地で乗ったもの（名前は忘れた）に似ていたけれども、そんなものとは比べものにならない程で、反射的に、一言で言えば「恐い」と思った。そして「ぐらぐら」と揺れ始めた。始めは「何やこれ!？」と大地震とは思えなかった。それは神戸に今まで「大」とつく地震はこなかったから。でも、これが大地震だと感じないわけにはいかなかった。そして、部屋の奥にある机がゆっくりと、本当にリアルに落ちていくのをしっかりと見た。揺れが終わった瞬間、ベッドから飛び起きて、隣りに寝ている妹に「大丈夫?」と大声で言うと（私の家は二つの家がくっついているので）父が隣の奥の部屋から「だいじょうぶか――?」とやって来て、すぐさま二階の部屋から階段で降りようとしたら、一つ目の階段の底が全部抜けていた。近くで階段で降りようとしたら、大丈夫だと思っていたその階段でさえ一番下の段が外れていた。そこを飛び降りて、斜めになっている玄関を出て外に出た。すると前の集会所、市営住宅など全部普通だったから「あれっ?」と思ったけど、すぐその横の道路をはさんだ肉屋がベシャンコだった。

電気は消えていて真っ暗だった。妹が「空が白い煙におおわれとう。」と言った。確かに白いもやが不気味だった。その直後にも少し揺れた。神戸がこんなことから日本は全滅やろうと思った。どんどん明るくなっていった。そして、近所の人たちはパニック状態だった。肉屋のおばさんが埋まっていると聞きつけた父は、沢山の男の人たちと頑張って助けた。幸いおばさんはケガもなく助かって私はホッとした。あちこちで火事が起こっていて、私のおじいちゃんを助けようと、父と兄が家に入ったが、二階が一階の上に乗っていてベシャンコだった。祖父や沢山の人が生き埋めになった。何日か経っても奥の家だったので、なかなか掘りおこせなかった。おじいちゃんが出てきたのは三、四日後だった。前日、私はおじいちゃんに修学旅行のおみやげを渡したばかりだった。とても悲しかった。でも、おじいちゃんの分も頑張って生きようと思った。中学の同級生も二名亡くなったし、知り合いのおばちゃんも亡くなった。複雑な気持ちだった。家はもう住めないけれど。出来るだけ学校に来て頑張ろうと思います。それに全国や世界の人々に感謝しています。

1月19日(木)

職員全員の無事を確認。

教頭を中心に教職員の安否確認に2日が過ぎたが、やっと全員の無事が確認された。残念ながら、2名の先生の親族の方が亡くなられたことを始め、教職員自身が様々な形で大きな被害を受けており、在校生の安否を一日も早くと思いつつ、なかなか捗らない日々が続いた。残念にもこの日、商業科1年生梁取由香さんが1/17に亡くなったことが判明。

担任の中にも家族、家屋のことで精一杯の方々も多く、組織的に動ける状況ではなかった。しかし、河田、白石両氏にはこの日避難所の巡回をしていただき、何とか一日も早く市内の避難所を巡回すべく助言を受けた。職員会議を召集したが、数人の先生方しか集合できない中、今後の対応を話し合う。

この夜も電気はなかったが、配給される食料も増え、避難者も規律正しく順番を守ってくれ始めた。しかしこちらの手違いから寒い中を20～30分整列状態で待機させてしまうなど、ある人から「ぶっ殺すぞ」と叫ばれた時には、情けなさや、虚しさを禁じ得なかった。

教職員の主な被災状況(1/19までに判明分)

榎本	--富山	西口	--避難所
中野	--姫路	谷垣	--二葉小学校
藤岡	--北区	古溝	--知人宅
中村 ⁷	--知人宅	長尾	--義母死亡、東須磨小学校
壺橋	--西須磨小学校	小村	--岡山
蔵本	--西郷幼稚園	藤原	--実母死亡
秋山	--実母死亡	藤井	--山口県

震災雑感 [古溝 茂] (7/20)

平成7年1月17日未明、とてつもない音と共に猛烈な揺れを感じました。まだ寝床にいた私は飛び起きると、暗闇の中を家具や建具などが飛び交っている状態でした。家屋が完全に倒壊しなかったため、下敷きになることは免れ、家族は無事でしたが子供は恐怖の中で母親から離れようとはしませんでした。安全確保の為家族とともに外へ出ると隣保の人たちも大勢出ていました。

そんな中で私は家屋の下敷きになっている人、瓦礫のなかで助けを待っているお年寄りなどの救出活動にも参加していました。

学校への連絡も断断れ、また生徒の安否も全くわからない状況の中、目の前にある仕事をするのが精一杯でした。

地震後、私は近くの公園でブルーシートを張っただけの粗末なテントを作り、隣保30名の方々と共同生活することになりました。救援物資の配給の手伝いに行く者、雨風を防ぐため、戸板を集め補強する者、夜の見回りをする者、とにかく一日があっという間に過ぎてしまう状況でした。

ラジオではガスタンクの爆発の危険が迫り、避難勧告が出されたり、あちらこちらから火災の情報も入ったり、余震の続く中、恐怖を恐歎するばかりでした。

神戸の至る所で、もっともっと悲惨な状況を体験された方々はたくさんおられると思いますが、それぞれの地域で互いに協力し、また各地から多くのボランティアの方々に来ていただき、生きていく勇気を与えてくれたことを感謝するばかりです。

震災後の混乱の中で、食料の配給に行っても、秩序正しく、また治安の面でもよかったということは、日本人として本当に自負できることだと思いました。

私はこの震災を体験し、多大な物を失いましたが、どんな状況の中でも生きていく自信、家族が支え合い、また地域の方々と助け合って生きていく素晴らしい体験をさせていただきました。また多くの先生方にも援助いただいたり、公務を替わっていたいだいたり、ご迷惑をおかけしたことについて、お礼とお詫びを申し上げます。

最後に震災で6千名を越す多くの犠牲者に哀悼の意を表すと共に神戸の復興の為、頑張っていきたいと思います。

1月20日(金)

徐々に教職員間の連絡も機能し始め、生徒の安否を一刻も早くとるための話し合いが行われ始める。前日の避難所巡回を受け、「今日は私が---」と言ってくれる担任もいたが組織的に避難所巡回を実施していこうということで、この日は電話作戦、避難者への対応を中心に一日を送った。

既に避難者の中でも現状認識をしていただける方もいるようであり、我々教職員は生徒の安否確認に全力投入すべきではないかと宿泊の荒木先生と相談。幸い、午後11時、九州電工の方々のご努力で電気が復旧、体育館では明かりが点くのと同時に大きな拍手が起こり、胸にドーンとこみ上げてくるものがあった。すぐに全校放送で、「生徒の安否が今まで出来ていない。元気な方々はボランティアとして協力願いたい。」との呼び掛けに20数名の避難者が申し出てくれた。その場で代表者を本校の卒業生でもある門口さんとし、避難者の自治組織がこの日のうちに出来上がった。

以後、物資の管理、配布などは自治組織を中心に運営され、我々もやっと本格的に生徒の安否確認に全力を投入することができるようになった。とりあえず登校されている教職員で当面の宿泊、生徒の安否確認などについての打合せが行われた。

——ボランティア組織(班編成)——

A班

沖林	学	(外)
畑	信行	(体)
原井	和子	(本)
平田	幸子	(本)
松田	美佐子	(本)
横内	伸枝	

B班

阿久根	幸作	(体)
飯田	光義	(体)
稲岡	香代子	(体)
岡部	恭幸	(体)
辛島	則子	(体)
井奥		

C班

佐多	まさみ	(体)
高峰	瑛子	(体)
竹林	由美子	(体)
陳	其昆	(体)
浜田	幸樹	(体)
杉本	良彦	
杉本	茂	

D班

徳永	愛子	(体)
徳永	二美	(体)
原	豊	(体)
森本	昭二	(体)
山崎	勝	(体)
宮内	芳生	

E班

河合	良	(小)
橋本	美子	(体)
橋本	正啓	(体)
門口	剛	(小)
原井	亮	
原井	聡	
原井	剛	

本部連絡

門口	充男	(小)
原井	檀	(本)
加来	久美子	(体)
森本	マサ子	(体)
赤木	次郎	(体)
大矢	増雄	(体)

[注：(体) 体育館，(小) 小体育室，(本) 本館教室，(外) 自宅より]

配布プリント

◎先生方へ

1. 宿泊のお願い

1/18 (水) 大野・神野・西山	22 (日) 大野・河田・神野・杉浦
19 (木) 富浦・清水・尾中	23 (月) 木下・尾崎・前田
20 (金) 谷口・荒木・松田・西村	24 (火) 山下・松尾・瀬川・中村
21 (土) 山野・西山・各務・事務長	25 (水) 駿馬・内田・谷口

2. 生徒の安否確認

各学年、担当者でお願いします。--- 一覧表（校長室）に記入

◎避難所巡回 1/21 (土)	須磨区	-----	山本・濱本
	長田区山電以北	-----	駿馬・大山
	〃 山電～2号線	-----	谷口・木下
	〃 2号線以南	-----	神野・西山
	兵庫区地下鉄以北	-----	内田・山野
	地下鉄～2号線	-----	富浦・松田
	2号線以南	-----	瀬川・清水

終了後、学校へ連絡ください。

3. D科入試の問い合わせについて

日程――予定通り実施

願書――後日、送付します

〔学校名、住所、担当者、男女の部数確認下さい〕

→教務か教頭へ連絡

4. 今後の予定

避難者への対応

市役所 331-8181 兵庫区役所 511-2111 (代), 511-5040 (総)

救急車要請 119

医務 ボランティアの進藤さん (呼び出して下さい)

食料の運搬・配布 その都度応援ください

呼び出し 8:00～21:30 (来校者よりの依頼)

電話での問い合わせ――伝言板に掲示

行方不明者相談所 078-360-3612・3613

今後の生活相談 市緊急対策本部 322-5121

～気をつけること～

- ・やさしく対応する
- ・絶えず声をかける
- ・外部からも食糧等を取りに来ますが、ここの人が取った後なら、OKとする。
- ・体育館は夜間照明を暗くする (午後10:30)
- ・その他の部屋はそれぞれ相談して決定

午後10:30放送



1月21日(土)

昨日の打合せ通り、教員各2名ずつで校区内の避難所の巡回が行われた。地震後5日目ではあるが、やっと在校生の安否確認に全力を投入することができた。しかし、電話も不通であり、なかなか全員の安否確認までには至らなかった。

校内では避難者の方々の自治組織が機能し始めたが、避難者名簿記入者数は430名であり、救援物資の配布や家族の安否確認の電話に追われる一日となった。

避難所巡回・回想 【富浦 誠】(7/18)

1/17、早朝突然我々を襲った悪夢のような震災から早6ヶ月が過ぎようとしています。思い起こせば震災直後の混乱の中で、初めて経験するような出来事が続き、学校としても様々な対応をしなければなりませんでした。

その中で、やはり我々教師としては生徒の安否確認ということを最優先しようということで、学校の中のことは本校に避難されてきた被災者の方や生徒のボランティアの協力を得ながら、校外の避難所の巡回は教師で分担して、生徒の安否を確認しました。

震災後すぐに学校に連絡してきたり、登校してきた生徒もいましたが、安否の確認が難しい生徒が数多くいましたので、学年を越えて避難所を巡回しました。避難所によって対応の仕方は様々でした。伝言を掲示してくれた所、放送で神戸生を呼び出してくれた所等色々ありましたが、やはり避難所に足を運び、生徒と会えた時の気持ちは口では言い表せないものがありました。「先生！」と言って泣き崩れる生徒、「みんな無事？先生とこは？学校は？」と質問する生徒、そんな状況が何日か続き、最終的に生徒の安否を確認し終えたのは1月25日でした。残念なことに当時1年生の女子が1名、震災の犠牲になりました。その葬儀に参列し、学校として追悼式をした時の悲しみは一生忘れないでしょう。

約1ヶ月がたち授業が再開したのは2月14日でした。避難所から通学する生徒、転居先から通学する生徒、各々が本当に苦しい状況の中での再スタートでした。今から思えば、本当にあの時、みんなが力を合わせてがんばり、よくここまで乗り切ってこられたと思います。まだまだ神戸が復興するまでには何年もの時間がかかると思いますが、お互いを思いやり、いざという時には全員で協力して事にあたる気持ちを今後も忘れないようにしていきたいものです。



1月22日(日)

地震以後、すべての教職員の通勤が可能ならば、明日登校をお願いし、今後の対応を職員連絡会で話し合うことが決まった。

日曜日ではあったが22名の教職員が出動された。避難者への対応や生徒の安否確認の為に避難所巡回に動き回る一日であった。

1月23日(月)

今日やっと校務運営委員会が開かれた。午後の職員連絡会には自宅の全壊・半壊など自分の事で大変な教職員もおられたが41名の出席があった。この会で、これまでの学校の状況が説明され、今後の取り組みも確認された。残念乍ら商業科1年生の梁取由香さんが亡くなられたが、残りの在校生の無事が確認された。

梁取由香さんの合同葬儀が10時から行われた。

打合せ

◎今後の取り組み

1. 教職員の動静について

- (1) 出勤・退勤の出勤状況表への記入
- (2) 教職員の状況表への記入
- (3) 教職員は登校しましたら必ず校長室へお願いします。
当面10:00~15:00よろしく

2. 生徒への貼り紙作戦

- (1) 神港生は連絡があるまで自宅待機をしておいて下さい。また元気で家屋も無事な生徒はボランティア活動に協力してください。
協力生徒はC3-1までお願いします(名簿チェック)

3. その他

- (1) 避難者名簿――事務室前――終了
- (2) コンピューター(山本さん)――各部屋へ――終了
- (3) 生活情報――新聞コピー掲示板に
- (4) 3年生――調査書(三職の山下迄、不在の場合三年生の先生迄)

4. 今後の取り組み

- (1) 各学年主任・担任
 - ① 生徒への対応
 - ② 安否確認――一覧表
- (2) 指導・庶務・図書・同和・副担
 - ① 交替で避難者への対応(校長室2名待機)
 - ② 当番表の作成・日誌の作成など
- (3) 進路指導部
 - ① 進学・就職への対応
- (4) 教務部
 - ① 入試への対応
 - ② 授業再開へ向けての取り組み
- (5) 指導部
 - ① 在校生の安否のまとめ
 - ② 被害状況のまとめ
- (6) 保健
 - ① 保健室の整備
 - ② 避難者の緊急時への対応

* 先生方は各職員室で整備方よろしく

* 宿泊の先生方は申し訳ありませんが、当日15時から翌朝10時迄
お願いします

1月24日(火)～26日(木)

次回(1/31)の職員会議が行われるまでに、教職員は可能な限り、生徒の家庭状況の掌握、避難所の世話、校内の整理整頓等を行うこととなり、この3日間も多忙であった。

日用雑貨配給の思い出[木下 明紀](7/20)

担任の先生方が生徒の安否確認を精力的にされている中、副担の私達は救援物資の配給の事に追われていました。救援物資の配給も食料品と日用雑貨とに分かれるようになり、日用雑貨配給は中館の第一選択教室で、書道室はその倉庫がわりになりました。

日用雑貨というだけに実に様々な物が届けられました。思いつくまま列挙してみると---

布団、毛布、衣類、パジャマ、下着類、トイレタール、各種ティッシュ、靴下、靴、運動靴、傘、石けん、シャンプー、バスタオル、タオル、軍手、歯みがき、歯ブラシ、使い捨てカイロ、生理用品、紙おむつ(大人用も)等など

衣類の中には、新品の立派な防寒着もあれば、明らかに着古した夏服まで色々な物がありました。下着類は洗濯が出来ないせいか、いくら送られてきてもすぐに底をつく有様でした。

配給時間の第一選択教室はさながらデパートのバーゲン会場のようにになりました。本校女子のボランティア生徒達は絶叫しながら、配給に追われました。日曜日ともなると、どこからか今まで見たこともないような家族連れが現れ、手当たり次第並べてあるものを取りまくり、嵐のように去って行くのでした。何がどれだけ送られてくるかわからない状況の中で、こんな風に配給していて、はたして平等に日用品がわたっていくのかと心配になることもありましたが、幸い量的には恵まれていたのではなかったのでしょうか。

救援物資の運搬、整理、配布をしていて、こんな仕事のほうが自分には向いているのでは?などと、本校に避難されている皆さんの苦労をよそに、暢気に動き回っていた頃が今では懐かしく思い出されます。

1月27日(金)

校務運営委員会が行われ、今後のことについて話し合われた。これまで校運が授業再開と避難者対応との2本立てで動かなければならなかったために、うまく機能的に動くことができていないという反省から、授業再開委員会と避難者対策委員会が設置されることとなった。各学年は引き続き生徒の掌握に重点をおいた。

又、生徒のボランティア活動については、各個々人がその場その場でボランティア活動に追われていたのを組織的に機能させるため、内田先生が中心となって組織作りをしていた。



1. 経過報告

- (1) 在校生の状況 1年 2年 3年
 (2) 避難者の状況
 (3) ボランティアの状況

2. 今後の取り組み

(1) 避難者への対応

① 今後の態勢

昼間の対応

事務室	1名
校長室	2名
医療	1名(当面)
日用雑貨担当	1名

5人体制

宿泊2名以上

27日(金) 白石、中村、河田	1日(水) 山野、賛
28日(土) 大山、中村	2日(木) 小藪、内田、木下
29日(日) 西山、瀬川、山本	3日(金) 荒木、山下
30日(月) 鈴木、民法	4日(土) 賛、西山
31日(火) 清水、喜田	5日(日) 大野、谷口

② 避難所内自治組織について(状況変化に対応して)

- ・現ボランティアの事情の変化
- ・教職員・生徒の事情の変化
- ・今後の在り方
- 組織
 - 物資搬入の問題
 - 物資配布の問題
 - 避難者の移動
- ・避難者への説明----ボランティア

(2) 学校再開へ向けて(校内の整理・整頓等)

- ① 未整備の部分の確認(資料室等倉庫・特別教室・同準備室)
 [本館・南館・中館・西館・体育教官室]
- ② 復旧工事について
 学校再開条件の整備--- 中館の縁切り作業、電灯整備、崩落箇所の修理
 その他校舎内整備と外構工事
- ③ 再開委員会(仮称)の開催 避難者代表、区役所の係、学校

(3) 生徒への対応

- ① 担任より生徒への対応--- 連絡があるまで待機
 移動した場合には担任へ速やかに連絡
- ② 北区の生徒への対応
- ③ 全体の登校日の目安
 ・登校時の対応
 ・避難訓練
- ④ 被災調査票の作成
- ⑤ 作文の件
- ⑥ 被災生徒へのプリント作成
- ⑦ 検定について

3. 各部・学年の取り組み

4. 学校再開へ向けての教科の取り組み--- 教科書、教材
 5. 卒業式関係--- 場所の問題、日時

生徒ボランティア活動の確立

君たち、生徒ボランティアの働きのお陰もあって、避難所になっている学校も、徐々に落ち着いてきました。毎日、しかも一日中、学校で活動をしてきている人たちもいますので、役割分担、日時の分担を以下の表のようにしていきたいと思います。

	仕事内容	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3
2.3 年 女子	電話の応対 放送・受付	A	B	A	B	A	B	A	B
男子 全員	荷物の搬入 [水・食料・ 日用雑貨]	A	B	A	B	A	B	A	B
1 年 女子	保健の介助 日用雑貨の 整理等	A	B	A	B	A	B	A	B
その都 度全員	校内整理 校内清掃	A	B	A	B	A	B	A	B

○生徒ボランティア一覧表（グループ分け）

3 年		2 年		1 年	
A	L2 家田 浩征 L2 滝川 秀和 L2 山口 慶一	A	C2 中島 伸一 L3 中村 歩 L1 大杉 健太 L4 福島 健	A	L3 久河 将之 L4 森枝 一敬 L4 柿本 寿史
B	L2 河合 龍治 C3 橋本 健 C2 国本 仙吉	B	C1 中山 徹 L3 河内 京三 L4 浜崎 正之 L1 高畠 悟郎	B	L1 井嶋 一人 L1 伊藤 善文 L2 浜口 貴司
A	C1 中山 香織 L2 川端 笑子 L1 西村 愛子 C1 赤沢 千亜紀 C1 木戸 由美	A	D1 植野 るみ子 D1 阿部 里香 D1 赤迫 真規子 D1 篠原 良佳 C1 上間 小夜子	A	L2 井口 純子 L3 居地 由美子 C2 西条 加代 C2 西川 裕美 L2 金月 理恵 L2 福田 文子 L4 志摩 仁美
B	L2 藤沢 奈央子 L2 田辺 政代 L3 横原 怜子 C1 重久 理恵 L2 長谷 美佳 L3 谷口 陽子	B	L4 高谷 有貴 L1 藤井 里奈 L2 松本 薫 L4 前田 純子	B	C2 國賀 三重 C2 山下 朋美 L1 小池 真由美 C2 山本 沙和 C2 宮本 佳美 C2 渡 政子 D1 森 千亜紀

- 原則として9:00～15:00迄とします。
- 都合の悪い人は、個人的に交渉して班を替わってください。
- 出来るだけ、割り当ての日には都合をつけて来ててください。
- 表以外の人で来れる人は適宜班に加わってください。
- 生徒代表

3年	家田 (L2)	河合 (L2)
2年	中島 (C2)	中山 (C1)
1年	國賀 (C2)	小池 (L1)
- 教師責任者 指導部 内田 1年 河田 2年 浜本 3年 白石

又、避難所先でも、自ら避難していた本校生徒がボランティア活動に励んでくれていたことが以下の御礼状が届いたことでわかった。

神戸市立神港高等学校長
福 尾 康 之 様

平成7年2月20日

神戸市立花山小
清 家



お 礼

裏六甲の清流に猫やなぎの芽が愛らしく映っている今日この頃ですが、ますますご健勝のことと存じます。

さて、未曾有の阪神大震災より、はや一ヶ月。貴校や貴職員、及び貴校の生徒さん達の被害はいかがだったでしょうか。

ところで、本校の校区では、その一角に避難勧告（123世帯、369人）が発令されるという大きな爪痕を残しました。その折り、約200人もの方々が、本校に避難され、大混乱の日々がしばらく続きました。

その時、貴校の第一学年の南智子さんが骨身を惜しまず、1月19日より2月10日（D-M-I、ソフトボール部）まで献身的にボランティア活動をしてくださいました。

避難されている方々への食料の配分や配給はもちろん、避難されている方々への手作りの新聞の発行等、本当に頭が下がる思いがしました。そのひたむきさは、避難されている方々も、一緒に活動されたボランティアの方々も、地域の方々からも称賛の声をあげておられました。

それを見るにつけ、聞くにつけ、貴校の教育方針の素晴らしさを実感した次第です。

お訪ねして、お礼に参上するのが本来とは思いますが、何分、まだ学校運営を軌道に乗せるべく忙しく毎日を送っている手前、はなはだ失礼とは存じますが、書面にて失礼いたします。

どうぞ、担任の先生方にも、我が意をお伝えくださいますよう、よろしく願いいたします。

まだまだ復興に向けて、毎日厳しい日々が続きますが、お身体をご自愛くださいますよう、お祈りいたしております。

「ボランティア活動を通して」(2/6 作文)

神戸市立神港高等学校 上間 小夜子

毎日、布団に入ってから「うちはいつ死ぬかなあ」って考えてしまう。あんなに
いっぱいの人が亡くなったんやから、私が死んでも別に不思議じゃないと思うと泣け
てくる。

私の家は、水道が不通なのを除けばいつもと何ら変わらない生活をしている。避難
している人に比べれば天国のようだと感謝している。地震があった一日目、二日目は
近くの店に行っても殆ど何もなくて、不安で仕方がなかった。でも今は、たいがいど
こに行っても欲しいものは手に入る。それにひきかえ避難所の人たちは今だっておは
ぎが食べたいと思っても、配ってもらえるわけじゃないし、寒いし、そういう映像を
テレビでみたりすると心が痛む。

先月の二十日ぐらいに、近くの小学校に避難している人たちのために朝御飯を作り
に行った。避難している人たちに実際に会うのは初めてであった。小さい子もいる
し、お年寄りもいるし、足の悪い人もたくさんいた。私達で作った雑炊を手渡してい
くと、みんなが「ありがとう。」と言って、頭を下げてくれた。何か申し訳のないよ
うな気さえした。皆さんが食べた食器を洗っていると「迷惑をかけてごめんなさいね
」とか「すみません」とか謝ってくる人もいた。テレビからは、他府県からの救援物
資が届いたというニュースがよく報道されていた。そんなことに比べると私のしたこ
となんか、すごいちっぽけなことやけど、そんなちっぽけな助けでも避難している人
たちにすごく喜んでもらえて早起きした甲斐があったなあとと思った。

別に私が貰った訳じゃないけど、救援物資を送ってくれたというニュースを見ると
ありがたくて涙が出る。窮地に立たされなかった周りの人や、自分の命の大切さがわ
からなかった自分が情けない。



1月28日(土)

本校の中館・南館から本館への渡り廊下の撤去等が開始される。(後日補修へと変更)
避難者代表との話し合いがもたれ、今後の学校再開に向けて、本館H R教室の避難者に
体育館へ移動していただくことや、生活場所の清掃などが確認された。

平成7年度1月28日(土)現在

神戸市立神港高等学校関係生徒避難所一覧表

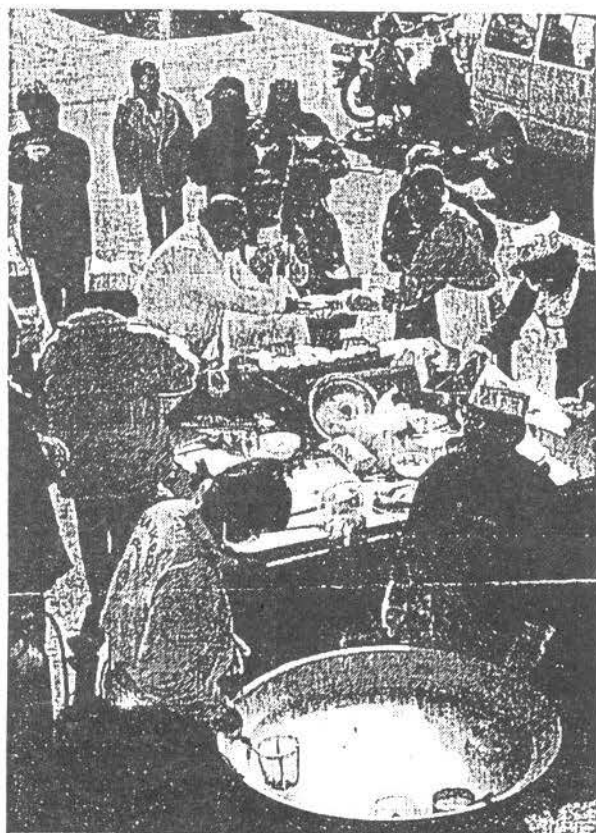
兵 庫 区	兵庫中学校 577-0744	難越小学校 511-5555	湊 中学校 511-5322	吉田中学校 681-3545	県神戸工高校 651-2811	明親小学校 651-2855	湊山小学校 521-3881	東山小学校 521-0800	法恩寺 湊川町10丁目	中部土木局 511-0515
	L1-1 島田 ○ L1-2 中川 ○ L2-1 池田 ○ C3-1 眞田 ○ C3-3 山崎 ○	L1-1 高井 ○	L1-2 三浦 ○	L1-2 塩田 ○ L2-3 上田 ○ C2-1 上野 ○ C2-1 田中7 ○ C2-3 野村 ○ L3-4 泉谷 姓 ○ L3-4 国友 ○	L1-3 秋本 ○ L2-1 内山 ○ L2-3 ビン ○ L3-3 秋本 姓 ○ L3-4 樋口 姓 ○ C3-2 田辺 ○ C3-2 米川 ○ D3-3 中田友 ○	D3-1 阿部 ○ (星は自宅)		L1-2 富 ○ L3-1 小川 ○ L3-1 原 ○	C1-1 永田 ○	C1-1 石川 ○
兵 庫 区	神港高校	平野小学校 521-3801	彌水小学校 521-2288	浜山小学校 651-3890	会下山小学校 577-1501	水木小学校 575-8360	湊川中学校 521-4874・5	勤労市民センター 643-2431	御旅公園	荒田小学校 511-3378
	L2-1 藤井 ○ C2-2 古田 ○ L3-2 松並 ○ L3-2 伊藤 ○	L2-1 中藤	L2-1 岩崎 ○ (713 車の中) L3-2 麦谷 ○	L1-2 赤波江 ○ L2-2 米谷 ○ C3-3 高見 ○	L2-2 野沢 ○ L3-1 石原 ○ L3-1 金島 ○	C1-2 城野 ○ L2-1 浅田 ○ C2-3 八木 ○ C3-1 坂井 ○ C3-2 堤 ○	L3-1 北澤 ○ L3-1 山垣 ○ L3-2 和田 ○ L3-4 岩井 ○ L2-2 中川 ○	C1-2 竹中 ○	D1-1 木下 ○ C3-1 木崎 ○	D3-1 津村 ○
兵 庫 区	鷹取中学校 731-0066	本庄中学校 411-2261	南須磨公民館 735-2770	太田中学校 732-0854	小野柄小学校 221-0003					
	D3-1 山下 ○ [須磨区]	L3-2 大高坂 ○ [東灘区]	C3-3 加藤 [須磨区]		D2-1 野村 [中央区]					
長 田 区	兵庫高校 691-1135	長田区役所 691-5121	大橋中学校 691-2201	神楽小学校 691-1702	室内小学校 691-0917	御蔵小学校 575-2226	長楽小学校 731-0190	名倉小学校 691-6181	駒ヶ林保育所 611-4530	長田高校 621-4101
	L1-3 河原 ○ C2-2 田中 ○ C2-3 大塚 ○ C3-3 河内 ○	L1-1 許村		L1-1 林 ○ C1-1 長谷川 ○ C2-1 興本 ○ C2-1 山村 ○	L1-1 松本 ○ L2-4 松本 ○	C1-2 林 ○ L2-1 山口 ○ D2-1 大久保 ○	D1-1 藤沢14 ○ L3-2 河田 ○ C3-1 福山 ○		L3-4 村井 ○	C3-1 牙山 ○
長 田 区	夢野台高校 691-1546	野田高校 731-8051	丸山中学校 691-0005	苅藻中学校 671-3757	真野小学校 671-0190	志里池小学校 671-7250	五位ノ池小学校 631-2741	真陽小学校 611-0456	新長田創価学会 643-2981	駒ヶ林公園
		D2-1 森山	C2-1 井神 ○ C3-3 神山 ○	D2-1 植野 ○ D3-1 木下 ○	L3-1 富永 ○	L2-3 吉本 ○	C2-3 古家 (星は自宅)	C1-1 与 ○ C1-2 野村 ○ L2-3 今井 ○ C2-3 島 ○ C3-1 江城 ○ C3-2 島本 ○	D2-1 金山	L2-4 久保井 *連絡は、直接 現地へ
長 田 区	長田工業高校 631-4838	駒栄保育所 641-7555	扇王寺保育所 643-2301	長田小学校 631-2731	駒ヶ林会館 631-3812	長田公民館 575-1374	JR鷹取工場 732-0081(総務)			
	C3-3 中越 ○	C2-2 井上4 ○	D2-1 谷本		D3-1 敷田	C1-1 中村	C2-3 林 ○			

1月29日(日)

中館について市教委営繕が調査したが、「何とも言えないが使用しないほうがよい。」とのこと。

この日も炊き出しのボランティアが来校。

全国からの善意が県内各地に届いている。心づくしの名物うどん、心意気の握りずし。水が足りずに歯磨きに苦労している人々への歯科検診。大地震発生後の混乱で眼鏡を壊した人々への無償修理。阪神大震災(兵庫県南部地震)発生から2週間。29日も復旧への苦悩の中で、さまざまな交流が続いた。



川崎うどんを振る舞うＪＣ香川ブロック協議会のメンバー（兵庫区の市立神港高校で）

うどんや握りずし

心づくしに被災者感激

「本場のうどんで元気を出して」。神戸市兵庫区の市立神港高校で二十九日、香川県から運ばれた讃岐うどんの無料給食が行われ、避難住民が久しぶりの温かい食事を楽しんだ。

ＪＣ香川ブロック協議会のメンバーが用意。トラック、給水車七台を運んで一万五千食を運び、朝から区内四か所で実施した。約五百人が避難している。

同区上沢通、主簿内田静子さんは「震災後、温かい食べ物初めて。暖房のない生活で体が冷えきっていたので、身も心も温まった気がします」と話している。

1月30日(月)

授業再開委員会(1月30日)

1. 生徒の登校

2月2日(木) 13時に生徒を集める: 神戸電鉄利用で鈴蘭台以北・以西は兵商へ
そうでない生徒は本校へ

* 生徒への呼び掛けの内容は富浦先生に依頼(統一内容)

2月2日の予定

HR ← → 学年集会(学年ローテーション)

* 学年集会の内容

	本校での担当
全体的話し	校長
学年の話し	各学年主任
指導部の話し	西岡
教務部の話し	中島
進路の話し(3年のみ)	内藤

兵商での担当

教頭	
1年	藤岡
2年	駿馬
3年	白石
内田	
村上	応援: 山岸他

体育館を借用し、全体、学年別の集会を開く。

教室のローテーション

* HR(集会前後)での連絡事項

検定について--- 担任より検定は2月4日(土)実施のこと連絡

対象者が限定されることに注意

会場は南館3階

自習希望者は登校できるように配慮

対象: 3年の大学受験者、検定受験者

授業の再開は2月6日からとすること

2月6日以降のHR教室について

教室 本館1年 南館2年 西館3年

2月6日の予定

HR

全校集会

清掃

作文(用紙用意)

* 被災調査

被災調査表--- 前田先生作成--- 兵商にも持参(約200枚)

(制服調査、教科書調査も含む)

2. 教務部より

(1) 2月7日以降の予定 (2) 教科書紛失生徒への対応

(3) 転校希望生徒への対応

(4) 3学年の学年末成績処理関係(案)

①HRで作文を書かせる件 ②評価 ③欠時数

(5) 卒業認定会議(案)

日程 OCR・チェックリスト提出 2月10日(金)

卒業認定会議 2月16日(木) D科可否判定会議同日

卒業式 2月28日(火)

会場 文化小ホール、摩耶兵庫、文化ホール、総合教育センターなど

(6) 情報処理科推薦入試関係

3. 部活動の再開について

校内での活動--- 基本的には停止

特認で顧問の付き添いが必ず必要

14:30分終了、15時完全下校

* 生徒の現状を考え、活動には十分配慮を願いたい。

4. その他

(1) 当面は遅刻欠席は公式には記録しない

(2) 今のところ就職の取消は1件のみ

(3) 来年度の副教材の決定を急いで欲しい

(4) 各部屋の片付け

(5) 破損備品・消耗品の調査について

1月31日(火)

午後より職員会議が行われる。教頭より被災状況の説明あり。

被災生徒は46の避難場所で生活中(個人的なものは除く)

死亡:梁取由香と母親、生徒の祖父2名、同祖母1名、先生の母親3名

負傷:生徒自身軽傷2名、生徒の家族軽傷1名

入院:生徒の家族2名

家屋の損傷:生徒の家→全壊102名、半壊111名、焼失6名、一部損壊25名
不明42名、問題なし622名

職員の家→13名(住めない状況)

1月31日 職員会議

校務運営委員会の報告

1. 経過報告 (1) 在校生の状況 1年 2年 3年

2. 今後の取り組み

(1) 避難者への対応

① 教職員の態勢

昼間の対応	事務室	1名	5人体制
	校長室	2名	
	医療	1名(当面)	
	日用雑貨担当	1名	

夜間の対応

今後の宿泊2名以上

27日(金)	白石、中村、河田	1日(水)	山野、贅
28日(土)	大山、中村	2日(木)	小藪、内田、木下
29日(日)	西山、瀬川、山本	3日(金)	荒木、山下
30日(月)	鈴木、民法	4日(土)	贅、西山
31日(火)	清水、喜田	5日(日)	大野、谷口

(2) 学校再開に向けて(校内の整理・整頓など)

① 避難者の変化の自治組織について

- ・避難者の変化、現ボランティアの事情の変化
- ・教職員・生徒の事情の変化
- ・今後の在り方---組織、物資搬入の問題、物資配布の問題、避難者の移動

② 避難者対策委員会---校長、中村、河田、西岡、小藪、入江、木崎、山岸
白石、内田、荒木、避難者の代表4名、区役所の係
(事務)事務長、山本

③ 未整備の部分の確認(資料室等倉庫・特別教室・同準備室)

[本館・南館・中館・西館・体育教室]

④ 復旧工事について

学校再開条件の整備--- 中館の縁切り作業、電灯整備、崩落箇所の修理
その他校舎内整備と外構工事

⑤ 授業再開委員会

庶務部長、教務部長、進路指導部長、1年主任、2年主任、3年主任

前田 中島 内藤 富浦 左古田 谷口

商業科長、情報処理科長

瀧波 村上 榎

(3) 生徒への対応

- ① 北区の生徒への対応
- ② 被災生徒調査表の作成
- ⑤ 作文の件
- ⑦ 検定について

4. 各部・学年の取り組み

5. 卒業式関係

授業再開委員会 <教務関係>のまとめ

① 生徒登校(案) - 2/2

「神戸電鉄利用者で鈴蘭台以北・以西の生徒は、2月2日(木)13時に神戸市立兵庫商業高校に登校しなさい。その他の生徒は13時に本校に登校しなさい。但し、交通事情等で登校できない生徒は担任の先生に連絡しなさい。」

※ 授業再開は、2/6(月)の予定(2/6は、全校集会、大掃除、作文)

② 2/6以後の予定(案)

授業: I 10:00~10:40 40分授業×3限の短縮授業

II 10:50~11:30

III 11:40~12:20

ST

◇ 2/7(火)~2/10(金) - 時間割の1~3限の授業をする

※ ローテーションは「金CA」 2/11(土)は、休日

◇ 以後、未定(情報処理科推薦入試ともからむ)

場所: 第1選択教室 → 使用せず(3年教室の1クラスへ)

第2選択教室 → 使用せず

情報処理講義室 → 使用せず(視聴覚教室へ)

情報処理実習室 → 使用せず(HR教室へ)

社会科教室 → 使用せず

書道室 → 使用せず(HR教室) <音楽室・美術室はOK>

簿記室 → 使用せず(HR教室)

計算事務室 → 使用せず(HR教室)

被服室 → 使用せず(HR教室)

③ 教科書紛失生徒調査

自宅の全壊・半壊の生徒数を調査し、学年(1, 2年のみ)・学科・コース別にしておく
→ 教務で各科目の教科書名は調べる(県教委からの正式の通知は未だ無し)

④ 転校希望生徒 - 転学受け入れ先は各自が探す

転学願 → 教務へ提出

転学照会

成績証明書(5段階)

該当学年途中の成績は、

2学期のみの成績を記載

(後日、正式成績を送付)

通知表のコピー(100点法)

コピーをとって教務に提出

* 用紙は教務にあります

⑤ 第3学年 卒業認定会議（案）

日程	OCR・チェックリスト提出	2/10（金）
	卒業認定会議	2/16（木） D科可否判定会議と同一日
	卒業式	2/28（火）

★ 情報処理科推薦入試関係

- ① 一般入試を含む公立高等学校入学者選抜に関する日程の変更ー裏面
- ② 願書の受付（場所： ）ー第3学年の授業が大半の先生方の御協力をお願いします。
- ③ 2/13（月）検査・面接の当日の時程変更（案）
職員集合 12:40
受検生集合 13:00 （面接終了予定時刻 16:30）

2/2（木）登校日のHR教室

☆ 1年―――本館の3年のHR教室
[荷物を動かさないように]

☆ 2年―――HR教室

☆ 3年―――格技室

学年集会

13:00~13:00 3年生 ---> 終了後HR教室へ

13:40~14:00 1年生 ---> 終了後下校

14:20~15:00 2年生 ---> 終了後下校



生徒への連絡事項

以下の内容を1/31(火)・2/1(水)で、各クラス連絡網を使って生徒に伝えてください。

・2/2(木)13:00に以下の2ヶ所に分かれて集合すること

- ① 神戸電鉄利用者で鈴蘭台以北・以西の生徒は「兵庫商業高校・体育館」に集合すること。
- ② ①以外の生徒は神港高校に集合すること。

*ただし、交通事情等で登校できない生徒は担任の生成にその旨連絡すること。

*登校時の服装については制服とする。ただし私服での登校を許可する。

*2/2(木)の登校時は筆記具のみ持参

*2/2(木)登校したら、以下の場所で待機すること

- 1年生--- 本館の3年生の各HR教室
- 2年生--- 南館および本館の各HR教室
- 3年生--- 格技室(西館)

授業再開について

神戸市立神港高等学校

☆ 2/6以降の生徒登校

① 2/6以降は、遅刻しても良いから出来るだけ神港高校に登校すること。登校が困難な生徒は、神鉄長田駅まで電車が開通するまで各自の居所で自主学習を行うこと。

② 本校での時程

9:50までに出来るだけ登校すること。

9:55 ST

10:00 授業開始 40分*3限 (2/6は、全校集会・大掃除・作文)

12:20 ST

* 早退希望者は担任に申し出ること。

* 清掃はなしで下校。

◎ 2/7(火)からその曜日の1~3限の授業を行うー別紙時間割を参考にしなさい

避難者対応ローテーション

日 時	宿 泊 [15:00～ 翌日10:00]	事 務 室		校 長 室		日用雑貨 [第一 選択室]	保健	備 考
		午前	午後	午前	午後			
1/31 [火]	清水・喜田	秋山	—	鈴木 藤原	前田 木崎	木下	山岸 児玉	職員会 [13:00～]
2/1 [水]	山野・賛	本庄	松本	松尾 小藪	田中 賛	西山	同上	
2/2 [木]	小藪・内田	中村	松尾	荒木 住井	濱本 鈴木	濱本	同上	登校日
2/3 [金]	荒木・山下	大山	松田	入江 木崎	西山 藤原	西山	同上	
2/4 [土]	西山・賛	尾中	谷口 ト	河田 秋山	白石 賛	内田	同上	
2/5 [日]	大野・谷口 ム	友村	神野	山本 長尾	中村 谷垣	木下	同上	
2/6 [月]								
2/7 [火]								
2/8 [水]								
2/9 [木]								
2/10 [金]								

- 宿泊の先生は連絡ノート（申し送り事項記入）に記入をお願いします。
 ○ 午前---10:00～13:00 午後---13:00～16:00 の間をお願いします。
 ○ 昼間の2/6以降の割り当ては校長室の表に各自で記入してください。

切 り 取 り

2/6以降 宿泊可能日 [2/11以降も続く見込みです]

[] 月 [] 日 () 曜
 [] 月 [] 日 () 曜 氏名 []

*教頭先生に提出してください

2月1日(水)

早朝の気温は零下。避難者の方々に少しでも暖をと教職員、生徒ボランティア、避難者の方々と一緒に格技室の畳を小体育室に敷き、病弱・老人の方々には和室に移動していただいた。

2月2日(木)

○生徒登校日

生徒を北区、西区の生徒で神戸電鉄利用者は兵庫商業へ、その他は本校へ集合させる。兵庫商業は168名、本校へは625名、出席率87.1%(1年88.4%、2年88.5%、3年86.3%)

本校では、各学年、それぞれ学年集会を行い、今回の震災で亡くなられた方々に対して全員黙禱。震災以後の経過、今後のことについて話したが、生徒達の明るい笑顔が心を和ませてくれた。しかし、多くの生徒が家をなくし、今後のことを思うと涙がこみ上げてくるのを抑えることができなかった。

避難住民を勇気づけ

高校生60人が献身

読売移動支局から



兵庫区

「救援・読売移動支局」は二日、神戸市兵庫区会下山前三の市立神港高校に開設した。この日は全校登校した。この日は全校登校した。この日は全校登校した。

十人が一人のために尽くす。避難所生活をしていて一番、勇気づけられることとです。という。ボランティアを続ける二年生、河内三君(モ)は「みんなが喜んでくれる顔を見るうちにやめられなくなった。充実感があります」

同校は地震当日の先月十七日、約千人の避難住民でこた返した。生徒は翌日から次々に集まり始め、次々と寄せられる救援物資をトラックから降ろしたり、食料を手分けして配ったり。トイレ掃除も嫌な顔一つ見せない。大学入試を控えながら「じつと座って勉強していられなくて」と励む生徒も。

避難者の一人の自営業原田さん(五七)は「最高の生徒



2月3日(金)

第1回避難者対策委員会
プールの解体が始まる。

避難者対策委員会

第1回 平成7年2月3日(金) 10:00~10:40

出席者 門口、加来、医療関係女性2名

校長、教頭、西岡、入江、内田、事務長、山本、住井、木崎(書記)

1. 西岡報告

- (1)生活棟を体育館棟に移す作業が昨日で終了した。
 - (2)グラウンドは1/3が陥没のため、市より「使用禁止」と言われている。
車の移動を要請 どうしても必要な人にはステッカーを貼る(一応50枚)
 - (3)電話等について(門口さんより)
 - ①食堂に本部コーナー設置し、そこに着発信可能な電話を設置してもらい、呼び出し等の放送も体育館棟内に限るようにしたい。
 - ②伝言板の移動
 - ③玄関前にテント張り案内所を設置、案内標識を体育館まで設ける。
 - (4)バイク等の撤去は貼り紙をして対処する。
 - (5)自転車置場は、生徒用は雨に備えてテントを張ってグラウンドに移動し、避難者用の洗濯場、干し場とする(洗濯機は救援物資でもらえるよう手配)
 - (6)担当教員
 - ①避難者ボランティア……………入江
 - ②本校生徒ボランティア(一旦解散したが必要あれば随時活動)…内田
 - ③日用雑貨……………木下
- ### 2. 女性ボランティアの方より
- (1)健康管理 本校避難者だけでなく、地域にも入りたい⇐高齢者対策を考慮(西岡)
 - (2)掃除当番を決めては⇐自主性を尊重し細かく決めない方が良い(門口さん)
- ### 3. 校長
- 西館下の駐車場と、中館の切離しの件についての報告
- ### 4. その他
- (1)校内放送(70番を使つての)の禁止
 - (2)今後、避難対策委員会を2日に1回程度開催予定

2月4日(土)

商業科特別教室関係の備品搬出
商業簿記検定実施(1級)
市教委より本館使用禁止の連絡あり

2月5日(日)

情報処理検定実施
避難者専用の発受信専用電話の設置



2月6日(月)

学校再開第1日 全学年集合 北区生徒もほぼ集合(クラスで1・2名欠席)

全校放送:校長、指導部長、庶務部長より

HR: ~11:10

大掃除:~11:30

進学で経済的不安を持つ者が25名。(進路指導部調査)

	男	女	計
4年制大学	6	5	11
短期大学	0	13	13
看護専門	0	1	1
計	6	19	25

校務運営委員会

避難者代表との話し合い

宿泊ローテーション表の配布

仮設校舎 5教室6棟(1棟2階)で25教室

内訳

管理諸室 4(校長室1.5、事務室1.5、管理員室0.5、進路指導室1)

教室 14 選択教室 2

トイレ 2 余り 1

書道 2

2期工事 理科室1(2)、被服室1(2)

西館の理科2教室をHRに、視聴覚教室を情報処理教室に

避難者対策委員会

第2回 平成7年2月6日(月) 14:00~

出席者 門口、加来、原、兵庫区役所藤本

西岡、中村、河田、内田、事務長、山本、入江、木崎(書記)

1. 西岡報告

(1)本日より授業を再開した。

(2)立入禁止個所に生徒が出入りして危険だった。

2. 内田 本校生徒ボランティアは一応解散、時々手があけば自主的に参加する。

3. 事務長 電話の件、洗濯機の件(県に依頼済)、物資搬入時の連絡(トランシーバー使用)

4. 門口さん 外部からの避難者

5. 西岡 給水車の常駐を県に依頼中

6. 門口、加来さん 仮設トイレの汲み取り依頼、避難者用を体育館付近に設置依頼

7. 掲示板 避難者の要望が書けるもの(門口さん)←市の広報用を設置(藤本さん)

玄関付近のものをはずしてほしい(西岡)

8. 仮設住宅 現状は 3月末迄に1万戸(約4万人収容)建設予定(藤本さん)

HRで被災状況調査実施

被災状況調査票

神戸市立神港高等学校

記入日	平成7年2月 日	LCD 年 組No	氏名
現在の住所	☎ () ☎ - -		
住居の種別	自宅 親戚宅 () 知人宅 () その他 ()		
必ず連絡がつく電話番号	☎ - - (方) 災害で住所変更の人		
当面の通学経路 【自宅】→	→【学校】		
親・兄弟・祖父母・他身近な親戚で死亡・入院の方があれば書きなさい（祖父入院等）			
下記のアンケートに○で答えて下さい 1. 住居について (A) ①全壊 ②半壊 ③一部破損 ④全焼 ⑤半焼 ⑥一部被焼 (B) 従来の住居は ①居住不能 ②不安はあるが居住可能 ③問題ない 2. 家財等について (A) ①ほぼ全部無事 ②生活に必要な物は無事 ③生活にかなり不便を感じている ④ほぼ全部喪失 ⑤すべて喪失 (B) 特に下記の物がなくなったので大変困っている 3. 衣類について (A) ①ほぼ全部無事 ②一部を失った ③ほぼすべてを失った (B) 靴がなくて困っている (C) 被災者で現在特に必要を感じている衣類があれば下に書きなさい			

※調査後住所が変わった場合、すぐに担任へ連絡しなさい。

以下のものについてなくして、補充困難な人は○印をつけ、必要事項を書き加えなさい。

制服等	冬制服上(サイズ) 冬制服下(サイズ) 夏制服上(サイズ) 夏制服下(サイズ) トレパン(サイズ) 長袖トレシャツ(サイズ) ウインドブレーカー(サイズ) 通学用靴(サイズ cm) 運動靴(サイズ cm) 体育館シューズ(サイズ cm) ※ブルマー等夏用体操服、ダンス・水泳用品については後日調査します
学用品	今後の学習に必要な学用品（そろばん等）で失った物があれば書きなさい（教科書外）

2月 避難者対応ローテーション

日 時	宿 泊 [15:00～ 翌日10:00]	校 長 室		日用雑貨 [第一 選択室]	保健	備 考
		午前	午後			
2/9 木	入江・富浦	山野	大山	木下	同上	
2/10金		瀬川	松田	濱本	同上	
2/11土	鈴木・龍波	安田	尾仲	西山	同上	
2/12日	松田・村上	清水	谷口	内田	同上	
2/13月	山下・西岡	白石	内田	----	----	推薦入試
2/14火	松本・内藤	木崎	友村	木下	同上	
2/15水	駿馬・加田	藤井	神野	濱本	同上	
2/16木	奥畑・蔵本	入江	----	----	----	会議
2/17金	小村・前田	住井	古溝	西山	同上	3年登校日
2/18土	谷口・友村	荒木	秋山	内田	同上	
2/19日	濱本・藤原	河田	鈴木	木下	同上	
2/20月	本庄・村上	前田	松尾	濱本	同上	
2/21火	福尾・秋山	中村	谷垣	西山	同上	
2/22水	榎 ・大山	長尾	田中	内田	同上	
2/23木	下川・尾仲	藤原	松本	木下	同上	
2/24金	谷口・田中	谷口	大山	濱本	同上	3年登校日
2/25土	内藤・尾崎	江隈	松田	西山	同上	
2/26日	入江・蔵本	友村	尾仲	内田	同上	
2/27月	龍波・小村	藤岡	神野	濱本	同上	予行・三送会
2/28火	加田・友村	本庄	大野	木下	同上	卒業式

- 宿泊は、基本的には校運のメンバーとその他の先生でお願いします。
[当日の15:00～翌日の10:00までお願いします。授業等で不都合のある場合は、宿泊の変更を個人的にお願いします。[校長室の表に記入してください]
- 3月以降は、女性の先生、事務の方、管理員の方もお願いします。
[女性が宿泊の場合は女性2人、男性1人の計3人でお願いします]
- その他、質問があれば教頭までお願いします。
[3月の予定表は2/25日頃に出します。]

2月7日（火）

中館校舎の一部解体工事開始により、騒音と煤煙が余りにもひどく生徒を避難させる。
2校時途中で生徒を下校させ、午後の部を休校とする。

校務運営委員会を4:30から行い、今週は生徒を自宅待機させることに決定。担任より連絡網で生徒に連絡。

2月8日（水）

情報処理科推薦入試願書受付開始

職員会議--- 前日の処理と宿泊ローテーションについて

校務運営委員会

○中館の再診断を受け今後の対応を協議（プレハブ教室、中館の再配備等）

○宿泊のローテーション（女子の宿泊については6日の校運の内容と違う点を協議する＝平等に女子も宿泊。但し女子は2人と男子1人の組み合わせ）

2月10日（金）

避難者対策委員会

第3回 平成7年2月10日（金） 13:00～

出席者 門口、原、加来、兵庫区役所藤本

西岡、中村、河田、荒木、内田、白石、事務長、山本、木崎（書記）

1. 西岡報告

- (1)食堂の電話、放送設備設置完了
- (2)校長室、事務室を学校業務に戻していきたい。
- (3)グランド駐車 避難者3台
- (4)避難者ボランティアの任務、人数はお委せする。

2. 門口さん

- (1)避難者立入禁止区域の確認（本館2階トイレをまだ使用している避難者あり）
- (2)女子更衣室の貼り紙（食堂の和室）実施

3. 山本 名簿チェック実施（前回316名、誤りが多いので再チェック）

4. 藤本さん 畳100枚が2/13(月)到着予定、中館に置く予定(後日200枚到着予定)

5. 体育館大フロアから教室、格技室への移動について

- (1)西岡案 2/26(日)～2/27(月)移動、2/27(月)午後より卒業式準備
2/28(火)卒業式後、シートを敷いたまま清掃、畳を敷く
- (2)門口さん 名簿チェック時に説明していく（卒業式、畳が入るの2点を訴える）
畳が後あと200枚あると良い

6. 情報処理科の入試について 2/13(月)は救援物資到着の連絡等は静粛に

7. 事務長より

- (1)畳を敷いた後、名簿に大まかな区画を入れては
- (2)段ボールはリサイクルするので、別にして捨てるように

8. 日用雑貨部屋の空箱は取っておいて、不要となった品物を他の避難所へ送付に利用

阪神大震災は、死者の数でも、被災者数、罹(ひ)つた人数でも戦後最大の災害となった。こんな中で、高校生や大学生のボランティア活動が目立っている。田中(たなか)君は、自分たちの生き方が世に活かされてきた若者たちが、進んで被災者支援に頑張ったのだ。

神戸市立神港高校(兵庫区)は、校舎の西側が壊れたが、一年生の女子一人が死に、全校生九百余人のうち、三分の一の家庭が、全半壊または全壊した。生徒は、五百人以上の被災者が避難してき、現在も約三百人が不自由な避難生活を強いられている。

被災者は自治組織をつくり、共同生活しているが、高齢者が多く、全国から届けられる救済物資の運搬もままならない。

こうした状況に、神港高校の生徒約三、四十人がボランティアをかねて、大活躍をしている。救済物資をトラックから降ろす作業から始めて、水道が使えるので水を運搬したり、トイレの設置をしたり、食事を運ぶ働きかけが、

震災地高校生、貴重な奉仕体験 2/10 日経

「ボランティア活動も、人々の命を救うことだ。私たちが、被災者のために、少しでも役に立つことを目指す」と被災者たち。

同校の西岡孝平生徒援護部長(左)は、二日ごろの学校生活では、みられた生徒の姿は、びっくりしている。先生たちも一緒に頑張っているが、生徒は先生の指示がなくても、自発的に動いていると話していた。

一年生のA君は「人の救済をみると、身が震えて泣いてしまう。二、三年生のB君は「自分の家も壊れたが、まだまだいい方だ。この体験は、教室の勉強では得られないものだ」と話していた。

同じく校長も「生徒も先生も、一体となって、被災者の一助に頑張っている。教室ではできない立派な教育だと語る。

学校教育の中にボランティア活動を取り入れることについては、いろいろな議論がある。今回、ボランティアの爪を身をもって体験した高校生たちの行状は、こうした議論に貴重な提言をしようとなる。

(K)

2月13日(月)

情報処理科推薦入試が行われる。

2月14日(火)

授業が再開される(10:00 より40分授業3校時まで)

2月17日(水)

避難者対策委員会

第4回 平成7年2月17日(金) 13:30～

出席者 門口、原、兵庫区役所藤本

(教頭)、西岡、中村、荒木、内田、白石、山本、住井(書記)

1. 職員会議報告(西岡)

- (1)本校体育館で卒業式実施決定
- (2)2/19(土)指導部会で役割分担、タイムスケジュール決定
- (3)来週早々に、校長から説明とお願いに伺う予定

2. タイムスケジュールについて

- (1)山本 図面に従いグループ毎に移動、昼は全部で500枚(中館1階に保管)
体育館前方の避難者⇒教室後方に移動、部屋を決定して移動教室に掲示
- (2)白石 部屋割り⇒移動計画⇒手伝い人数割当⇒実施

3. 移動計画概略

- (1)2/25(土) 教室・格技室の清掃と断熱材敷き(断熱材は間仕切に再利用しては)
- (2)2/26(日) 移動、体育館消毒とシート敷き、卒業式準備
- (3)2/28(火) 消毒とシートのガムテープ止め、畳敷き、移動荷物搬入

4. 駐車場について

- (1)資材搬入との関係で柔軟に対応、仮設工事決定次第番号打ち直し予定
- (2)部外者は入れない

教員になって10年、校内合宿以外では校内で宿泊したことはなかった。阪神大震災のために貴重な経験をすることができた。あの日から半年が過ぎた今、宿直に関して感じたことを記してみたい。

私は、男性の教職員の中では、積極的に宿直に協力したわけでない。震災後1月19日に、神戸市営地下鉄が板宿まで開通したのを機に出勤した。当初、ボランティア的に自ら名乗りでる形での宿直であったが、私は名乗りでることが出来なかった。神戸に親戚等がない家族のことを考えると、どうしてもできなかった。その後のローテーションでの宿泊のみ4回行った。

2月19日、最初の宿直は谷口睦緒さんと二人で行った。一ヶ月が経過した避難所は落ち着きを取り戻しており、大したこともなく話に花が咲いた。ただ、本館一階の柱の亀裂が不気味だった。

3月6日には女性の職員の宿直が始まっており、この日は中野さん、須谷さんと三人で宿直を行った。この頃までは、宿直の教職員が避難所の弁当やパン等を気軽に貰える雰囲気があったと思う。

3月29日、山本則正さんとの宿直は最初から食事を持ち込んだ。二ヶ月余りの間に避難所は、独立した一つの共同体のようになっており、そこから食料を貰うのは気がひけたからである。

5月14日、一人で宿直した。4月に山田校長になってから、男性職員一人宿泊体制になり、二人宿泊体制に比べローテーションの間隔が随分延びた。個人的にはこの方が気分が楽であった。

阪神大震災のために自然発生的に避難所になってしまった割には、神港では順調に物事が運んだのではないだろうか。教職員は宿直も含めて何らマニュアルのないまま避難所の運営に当たった。そして、半年何とか乗りきったのである。

今後、様々なマニュアルを整備するとともに、そのマニュアルを二度と使う日が来ないことを希望したい。



2月20日(月)

職員会議で卒業式を本校で実施することが決定される。

避難者対策委員会

第5回 平成7年2月20日(月) 15:15~16:15

出席者 門口、原、兵庫区役所藤本

(校長)、(教頭)、西岡、中村、河田、入江、荒木、白石、事務長、山本、西山、

1. 移動計画で心配なこと(河田) 住井(書記)

(1)教室の広さは充分か 大切な荷物だけ入れて、それ以外は廊下に出す。
(約17~18名) 教室内に通路は作らない。

(2)移動通路が限定されるが 本館廊下は使えないので、北側を使用する。

2. 移動教室表配布

3. 移動手順説明(白石)

体育館倉庫保管荷物のシール貼り ←出来るだけ多く倉庫に保管してもらえるとありがたい(門口さん)

4. 移動に関して

(1)部屋の割当については、各教室にプリントを貼る(山本)

(2)全体の流れと荷物の数を把握したい(門口さん)

(3)移動順番を逆に訂正 半数終了後は荷物を一旦ステージに上げてシートを敷く

(4)名簿の訂正 未登録者は格技室へ移動する

(5)格技室移動の方のトイレは、2階を使用する

(6)体育倉庫の上の1家族について 猫と危険性で問題

(7)畳の図面 1人当たり2.5畳の広さ

(8)段ボール 大きさが揃うとよいが……

(9)卒業式当日 玄関の掲示板撤去、門口・原さんが来賓として出席

(10)本日、大フロアーと会議室の方々に説明とお願いに伺う

5. その他

(1)日赤の映画 中止 (2)風呂(寝たまま入れるもの) 12:00~テント2張り

(3)水道 未定 3月 (4)電源 乾燥機用は2台分確保済み

(5)昨日 不審者2名が進入したが、警察に連絡して出ていってもらった。



— 教師用・卒業式に向けての避難者移動計画（案） —

今年度の卒業式を本校体育館で行うために、現在体育館に避難されている方々が体育館から本館に移動していただけることとなりました。そこで、次のように計画を立ててみましたので、ご検討ください。

移動にあたっては原則として在校生の1クラスが移動教室1クラス分を担当する。

（例 L1-1の生徒はL3-1に移動する避難者の手伝いをする。また、担任の他に1～2名の先生がL1-1につく）

日程

- 24日までに
 - ・避難者の家族構成確認--- 年齢、人数、持ち物、健康状態等
 - ・クラスの誰がどの避難者の担当をするか
- 25日
 - ・本館使用の1年生は授業終了後、各自の机・椅子を南館へ移動。各館の清掃（格技室も含む）
- 26日
 - ・体育館から各館へ移動
 - ※1、2年生が授業なしの登校となる。翌27日が代休
- 27日
 - ・予行と表彰式は3年生だけで行う。会場準備は3年生で行う。翌28日の準備も3年生で行う。
- 28日
 - ・卒業式終了後、在校生登校。体育館の清掃→畳敷き→避難者の移動

2月24日（金）

避難者対策委員会

第6回 平成7年2月24日（金） 14:00～14:45

出席者 門口、原、兵庫区役所藤本

校長、西岡、中村、河田、入江、荒木、白石、事務長、山岸、住井（書記）

1. 移動計画について（西岡）

- (1)2/25(土) 朝にスムーズな移動を呼びかける（あわてさせないで、ゆっくり移動）
体育館倉庫の清掃、倉庫前の方々の移動は午後より開始
- (2)2/26(日) 大きな変更なしで、予定通り10:00～
布団だけの方は格技室へ（未確認者は記号等を付ける）
- (3)清掃(山岸) 消毒液新聞紙⇒②雑巾⇒③ダスキ⇒④シート⇒⑤ダスキ
- (4)茶幕準備
- (5)式終了後
 - ①シート清掃
 - ②畳搬入 中央⇒両側へ敷いていく
 - ③シートの重ね目をガムテープで固定（畳が無い箇所）
 - ④荷物の移動
 - ⑤体育館入口を二重扉に（隙間風を遮断）
 - ⑥断熱材の間仕切を検討中

(6)体育館倉庫の荷物の受け渡し 河田と門口さんで

(7)電話 2/27(月)28(火)は使わない メッセンジャーとして走る

2. 山岸報告 大フロアーから和室に2名移動

避難されている方々へのお願い

毎日、大変な生活ですが、如何がですか。少しは慣れましたか。 まだまだ大変な生活が続きますが、どうか頑張ってください。

さて、先日よりお願いしておりました「卒業式」の件ですが、皆様のご好意により、本校体育館大フロアでとり行わせていただきます。つきましては、下記の通り予定いたしますのでご了承ください。

記

日程

2月25日（土）までに、係の教師及び生徒が、皆様の所へお伺いいたしますので、荷物移動についてご相談ください。

2月26日（日）午前10：00頃より、順次移動を開始いたします。

2月28日（火）卒業式終了後、大フロアの環境改善（シート及び畳を敷く）を行います。その後、皆様に戻っていただきます。誘導等は係の教師及び生徒が行います。

移動先

本館2階3階の教室及び、西館4階の格技室です。
なお、各部屋には「断熱シート」を敷いておきます。

※何かわかりにくいことがございましたら、本部（校長室）までお問い合わせください。

2月25日（土）

卒業式に向けて本館のHR教室の机・椅子を南館へ移動させる。

2月26日（日）

卒業式の準備のため登校日

- 9：30 職員集合 体育館大フロア内避難者移動（HRへ）打合せ
2年生登校・集合指導→荒木
- 10：00 移動開始、MBS取材来校（18：30放映）
- 11：00 移動終了、消毒作業（新聞紙に消毒液を含ませ掃き取るとる）
- 13：30 1年生登校、卒業式会場づくり

2月27日（月）

3年生登校日

- 10：00 登校、HR
- 10：30 中庭集合→体育館へ、卒業式予行
- 12：30 体育館へ集合、同50分同窓会入会式、記念品贈呈式、表彰式
- 16：00 自衛隊大型トラック4台が畳400枚を積載し、到着。
男子生徒、ボランティア生徒、職員により畳をリレーで簿記室へ搬送。

2月28日（火）

一般入試願書受付

- 卒業式（10：00）卒業式後体育館フロアに畳敷き作業（13：00）
避難者HR教室より体育館フロアへ移動、発砲スチロールで間仕切
南館より机・椅子を本館へ戻す。
TBS、サンTV、YTB取材、放映される。

避難者との協力で迎えた 神港高校47回生の卒業式

秋山 明之



ぼんりゅう (95.6)

混乱の中で 避難者の受け入れ

今回の大震災による未曾有の災害のなかで、少しでも日常生活をとり戻す努力が懸命に続けられました。そして、それは現在も地道に続けられています。

神港高校は、前身の神港商業学校から数えてまもなく創立九〇年を迎えようとする伝統校です。地域社会の期待を背に、交易都市神戸を支える人材育成を果たしてきました。しかしながら、苦境はまったくといっていいほどそのことは意識されることなく、私自身にとつても「伝統」というのは何か現実味のないものでした。まして、組合でいわれるような、地域社会との交流、など、雲をつかむような話です。

ところが今回の震災で、この地域社会における学校の意義が本当に問われるところとなりました。しやくし定規な話でいえば、高等学校は神戸市の防災計画からはずれており、指定された避難所は小中学校でした。しかし、今回、近隣の小中学校はすぐに満員となり、多くの被災者が高等学校に避難されてきました。当初は物資も届かず、どこの学校も混乱が続けました。その混乱のなかで、出勤した教職員は公務員として真摯に勤務に働

きました。しかし、地震から数日たつても、本来の任務である生徒の安否確認すら不十分な状況で、被災者に「学校本来の仕事に戻りたい」と協力を呼びかけました。それに応じて避難された方の中から八名ばかりが集まって、食料・物資の運搬などを始めました。さらにその中から門口充男さんが避難者ボランティアのリーダーを引き受けてくださいました。

この後、仕事は水運び、トイレの管理、掃除、生活物資運搬、訪問者の応対と、次々に変化していく仕事をこなすうちに、次第に組織も整ってきました。

教職員・住民・生徒が すべてボランティア

今回の震災の報道では、ボランティアが目撃されましたが、その多くは外部から神戸に救援に来るケースだったように思います。やもやもすると被災者がそれらのボランティアに甘えているような印象をよぶ報道もありました。しかし、決してそうではありません。たしかに専門家はいなくなつたけれど、地域社会を守るために被災者もボランティアとして必死に動いたのだ、といったと思います。

震災直後から生徒は何人か顔をみせていましたが、彼らもボランティアの一員として大変な動きをみせました。在校生

の学年末考査中は、卒業したばかりの卒業生が代役をつとめてくれました。

このような教職員・住民・生徒の連帯の中で、徐々に日常がとり戻されていきました。日常とはいきいことではなく、つまり、要領のいい人もいればお人好しもあり、あつかまいい人もいればひかえめな人もいるということです。それなりのトラブルもあったことは確かです。

避難者も参加した 感動的な卒業式

そんななかで、卒業式が近づいてきました。例年、会場となる体育館は、避難者でいっぱいです。その当時、神港高校では、五〇〇人余りが避難していました。こんな大変な状況だからこそちゃんとした卒業式をさせてあげたい。ボランティアのリーダーの方々に打診すると、「そりや、もつとだ。遠慮することはない」との返事でした。しかし、実際には二〇〇人ちかくの人と物をいったん体育館の大フロアーから搬出し、式後にはまた搬入しなければなりません。綿密な計画が必要でした。大フロアーの避難者全員を前にして、校長が頭を下げ、担当教員がいていねいに移動手順を説明しました。式の二日前に、大フロアーから教室へ移動していたとき、式当日は午前中に式を

終わらせたあと、午後に体育館に戻つていただきました。それとあわせて居住性改善のための景の搬入も行いました。当日の移動は見事でした。予定時間より短い時間で移動は完了しました。避難者の代表にも参加していただき、卒業式も滞りなく終えることができました。避難者の方々に負担をかけすぎではと心配していましたが、門口さんは、「本当に手づくり」の式で、みんなで無事終わったことを喜びました。準備からかわつたので、当日は自分の卒業式よりも感動しました」といつておられました。

実は、門口さんは本校の昭和四〇年の卒業生でもあるのです。本校に避難された方々の中にも実に多くの卒業生、あるいは身内が卒業生という方がおられます。現在も、在校生の多くが近隣の中学校から進学しています。過去も含めて、まさに地域に溶け込んだ学校であるといえるでしょう。大正五年に現在地の全下山に移転して以来、地域とともに発展してきたという、このことが神港高校が落ち着いた避難所でありたいひとつの要因であることは間違いないと思います。このことは、今後の神港高校の復興を考えるうえで重要なことだと思います。のみならず、学校のあり方を考えさせられる例ではないかとも思うのです。

3月1日(月)

避難者対策委員会

第7回 平成7年3月1(月) 13:30～

出席者 門口、兵庫区役所藤本

校長、西岡、中村、入江、荒木、内田、白石、事務長、山岸、住井、木崎(書記)

1. 西岡報告

(1)昨日の卒業式のお礼

(2)今後は避難者の方の自立を促す方針 行政が肩代わりして欲しい←藤本さん同意

(3)今後の学校行事 3/20(月) 入学説明会 学校で何とかする

4/10(月) 入学式 今後の様子を見て体育館でできるか検討

2. 門口さん

実数(2/28現在)は約280名で、昼・夜・週末だけいる人など様々で把握しにくい。

3. 校長

仮設住宅が当たりやすくするために、本校に登録だけしている人もいると思われるので、行政で、仮設住宅申込者に、避難所にいるいないに係わらず公平に扱うことを公言してもらいたい旨、校長がお願いしていたと、藤本さんから区役所にしっかり伝えてほしい。

4. 西岡

(1)仮設校舎が建てば、全校集会のスペースが無くなるので、駐車場削減は必至。

駐車場削減は早目に対応したい。

(2)今後、門口さん達リーダーの方々とは、これまで以上に密接に連絡を取りたいが、一般避難者の方々には、自立を促すために多少、突き放したような対応をすることもある。

5. 避難者の自立について行政への要望

(1)西岡 避難者の自立を促すことについて、藤本さんにも色々お願いしたい。

藤本さん 当然避難者の自立を促すべき。

(2)校長 全く身寄りの無い老人とか、色々状況別にランクがあるだろうが、どれ位いるのか。

(3)西岡 体育館棟は生活スペースとして一応提供したが、最終的には和室あたりを考えているが……。

(4)校長 松本地区は都市計画地域で、現在建設不可能なのだから、行政は住宅の確保をしっかりとってあげて欲しい。

(5)西岡 現在、和室にいる人は病気、年齢等で非常に心配している。例えば老人ホームとか、福祉あたりで何とかしてもらいたい。

(6)校長 今より人数が増えていくようでは、学校で十分な対応もできなくなる。

藤本さん 非常に難しい面もあるが、行政で何とか対応してみる。

(7)事務長 兵庫区役所の業務が正常に回復するのが立ち遅れていると聞くと、今後、避難者がいなくなるまで、藤本さんはいてくれるのか。

藤本さん それは全く不明。

(8)校長 何とか3/31(金)をめどに、行政の方でもしっかりした対応をお願いしたい。

その他

(1)西岡 名簿の作成依頼⇒山本(数日中に)

(2)白石 2/26(日)の大移動の時に、出て行かれたことが確認出来た人もあり、その名簿が手元に集まっている。

3月6日(月)

避難者対策委員会

第8回 平成7年3月6日(月) 15:45~16:45

出席者 門口、原、兵庫区役所藤本

(校長)、(教頭)、西岡、入江、内田、山岸、事務長、山本、西村、各務、

住井(書記)

1. 水道について(西岡)

水圧が上がらないので、送水管を地中に埋めないで配管する(仮の蛇口を4個設置)
(ガス管の破壊も大きいと推測される。復旧は予定が立たない。6・7月)

2. 今後の学校行事について

(1)3/16(木) 入学試験 静かな環境で受験させたいので協力をお願いします。

救援物資はグラウンドで降ろす。

(2)3/20(月) 合格発表 入学説明会

(3)4/10(月) 入学式と説明会

①西岡案 1)断熱材・畳・荷物を両側に寄せて茶幕で隠す

2)3~4時間かわしてもらう

3)卒業式より小人数だし、後部もかなり空く予定

4)入学式と説明会終了後、速やかに元に戻す

5)3/19(日)までに結論を出したい

6)畳はステージの奥、倉庫に入れる(消毒も兼ねて移動)

7)3/15(水)・16(木)に説明とお願いに伺う

②門口 原さん 前回のように、荷物に名前を書いてもらうと良い(畳も)

3. 名簿について(山本) 修正して整理する。

4. 生活面の改善について

(1)カセットコンロの使用について(水道が復旧してから開始)

①感知器との関係 1)魚焼きは外で 食堂の西外側で使用

2)湯沸かし等は中で 洗面所右側に机を置き下に何か敷く

②コンロ設置 3台

(2)その他 必要な物を救援物資でもらう。

5. 駐車場について

(1)本校に避難されている人のみとし、再チェックする。

《断熱材(100枚)到着⇒簿記室へ搬入 入江、内田》

①3段階で対処 1)立て看板でお知らせ⇒2)ステッカー配布⇒3)ワイパーに警告文

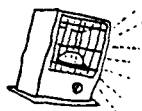
②電話連絡 警察から働きかけてもらう。

③リスト 門口さんが作成

(2)水道が復旧すれば、仮設トイレは撤去予定

(3)学年集会を行うために、スペースを是非確保したい。(体育の授業のため)

6. その他 チャイムの10秒前に放送が入ることがあるので要注意(内田)



3月15日(水)

避難者対策委員会

第9回 平成7年3月15日(水) 13:35~14:30

出席者 門口、原、加来、兵庫区役所藤本

西岡、河田、内田、山岸、山本、谷口、住井(書記)

1. 3/19(日)の炊き出しについて(谷口)

(1)模擬店 おでん、焼きそば、サラダ、焼肉、しゃぶしゃぶ、たこ焼き(50~100人くらい)

(2)カラオケはどうか 気分転換になって良いと思う(門口さん)

(3)輪投げなど

(4)バザー

(5)12:00~15:00 中庭で教師と生徒も入って実施

(6)買い出し 3/17(金)から 容器等は門口さんが準備済み

《谷口退室》

2. 生活関連(山本)

(1)ガラス 全部入れ替え予定

(2)水道 体育館以外相当かかりそう(損傷大)

(3)ガス 点検済み もうしばらくすると使用可

(4)食堂 清掃開始 ガスは使用しない。LPGボンベを使い切らないと危険である。
コンロを準備する心づもり(門口さん)

3. 入試について

(1)8:00~16:00過ぎまで放送中止

(2)トラックのピポピポ音止めてほしい。

(3)9:00に校門を閉める(必要に応じて開ける)部外者シャットアウト

(4)16:00 山本リングダ来校予定 受験生が下校してからにしよう。

(5)工事中止 日赤は来ない

4. その他

(1)洗濯機・乾燥機 電源O.K. 3/17(金)から使用

(2)パイプ椅子の運搬(入学説明会のため) 3/20(月)10:00~約20分 170脚⇒格技室へ

(3)健康診断 3/19(日)・20(月)実施

(4)体育館の雨漏り 場所が変わってきている

(5)保健(山岸) ①衛生面に気をつける(のみ、だになど)

②昼は大丈夫か

③和室の方々は要注意 早期対策必要

④布団乾燥機を入れよう⇒藤本さんに要望

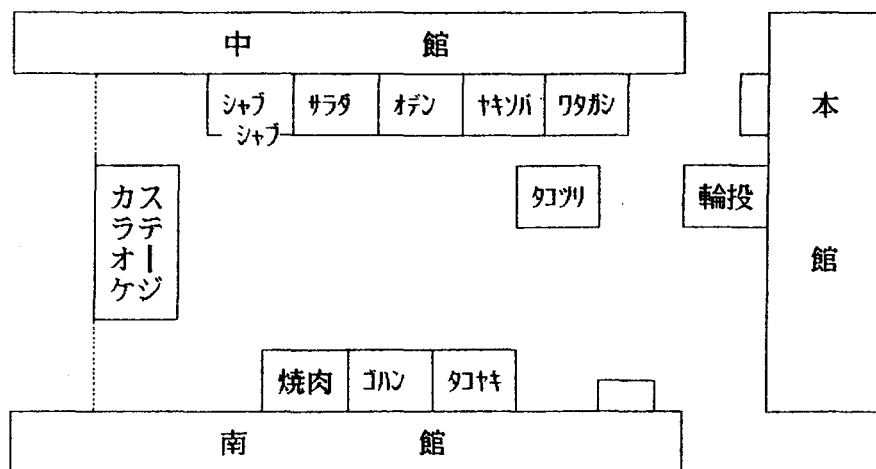


避難所への炊き出し(職員・生徒ボランティアによる)(3月19日)

神港炊き出し作戦

3月19日(日) 9:30 中庭集合
10:00 準備開始
12:00 食事開始
↓
交流会 12:30からブラバン演奏
カラオケ大会
15:00 終了・片付け

模擬店	おでん	(古溝・松尾・左古田・小藪)
	焼きそば	(山下・富浦・神野・谷口元)
	しゃぶしゃぶ	(清水・入江・中村・中島)
	焼肉	(瀬川・田中・喜田)
	サラダ	(藤井・尾崎)
	たこやき	(谷口睦・西岡・PTA)
	ライス	(山野・前田)
	わたがし	(須浪)
アトラクション	カラオケ大会	(河田・内藤)
	タコ釣り	(内田・鈴木)
	輪投げ	(西山・西村ま)
買い出し	3月17日(金)	古溝・西山・木下(瀬川・清水)
テント設営	3月17日(金)	10:00から
		水泳部・ソフトボール部・男子バスケット部・男女バレー部
		ソフトテニス部・ボランティア
調理	3月18日(土)より	
冷蔵庫(食堂・生徒指導室・職員室)		を使用



レンタル用品 ボンベ（8L×5本） レーザーカラオケ
 コンロ（8本） たこ焼き器

救援物資 ボンベ（８Ｌ×４本・１８Ｌ×２本）
米（大量）
じゃがいも
容器（大量）・はし（大量）など

震災後の本校の現状と今後の見通し ^{3/20現在}

神戸市立神港高等学校

1. 施設・設備の損壊状況

- (1) 中館は、① 中館の増築部分（特別教室4室分）が分離・傾斜し、現在すでに解体済みである。（4階設置の電子計算機端末25台は損傷し廃棄、大型電子計算機は無事）
② 中館の約6分の2（特別教室3、普通教室1）が傾斜し校舎に亀裂が入る。現在、立入及び使用禁止となっている。
- (2) 本館は廊下側の柱約20本に大小の亀裂が入る。
- (3) 本館と南館・中館の渡り廊下に亀裂。現在、使用禁止となっている。
- (4) 中庭の4分の1が西下へ移動・陥没。亀裂あり。憩いの広場も土間が少し陥没した。
- (5) 中庭の影響で石垣が渡り廊下と共に西へ約30センチ移動した。
その石垣のため南館の一部（OA教室、図書室、保健室）が一時使用禁止となる。
- (6) プールは損壊がひどく、現在すでに解体済みである。
- (7) グランドは擁壁側周囲（4分の3）が約10～5メートルの幅で陥没した。（現在、整地して使用中）
- (8) 水道管が随所で破断した。

2. 本校内の避難者について

- (1) 現在の避難者数は約300名となっている。（最高時約900名）
- (2) 本校内の避難場所は体育館棟（大フロアー、小体育室、大会控室 和室）になっている。
- (3) 物資の供給場所として食堂を使用中である。（本部としても使用中）
- (4) 本校職員組織として、避難者対策委員会を設置し、避難者代表と緊密にミーティングを開催し対応している。

3. 新年度への対応

- (1) 校内ライフラインの確保
 - ① 電気は震災4日後夜に復旧した。
 - ② ガスは未供給であるがガス管は健全、新年度には復旧するものと期待している。
 - ③ 水道管は現在100%近く復旧した。
- (2) 施設・設備の確保
 - ① 普通教室
16教室は従来の普通教室が使用可能で、2・3年生が使用予定。新1年生は仮設教室（3月27日完成予定）で対応する。

② 特別教室

- ア、8特別教室が使用できない状況にあるが、他校舎への移転等で対応の予定である。
- イ、情報処理実習室・情報講義室は中館へ、被服室は仮設校舎に確保の予定である。
- ウ、中館内の書道教室・社会科教室は使用可能な方向へ努力中である。
（本館のOA教室、図書館、西館の音楽室、理科2教室、L.L教室、視聴覚室、調理室、美術室は健在で従来通り）

③ グランド等体育施設

- ア、体育館棟は避難場所として使用中で授業用としては使用できない状況下にある。避難者の減少を待って使用する。
- イ、グランドは整地し使用可能状況にあるが、西側半分は仮設校舎を建築中で、残りは避難者駐車場として使用中である。駐車台数の減少を待って使用の予定である。また、本校北側の水道局のグランドの借用を予定している。
- ウ、格技室（西館）は従来通り使用可能である。

④ パーソナルコンピュータ等一層充実・整備の予定である。

- ⑤ 食堂は避難者と本校生が時間を割り振るなどして共用していく方向であり、食堂も新学期より開業する方向で検討中である。
- (3) 始業式は本校中庭（雨天時は格技室とHR教室の併用）で実施する。
- (4) 入学式は神戸市立摩耶丘高校を借用し、4月10日（月）午後1時30分より挙行の予定である。

(5) 新年度の授業態勢

前述のように、施設・設備の確保については一部仮設教室の使用と体育施設の確保に不十分さが残るが、ほぼ平常時の授業展開ができる方向にある。また、神戸市営地下鉄上沢駅も4月中旬には使用できる見通しもあるなど、交通事情も好転してきており、平常時と同様の授業態勢が確保できる見通しである。また、震災による授業の遅れの回復策については、今月末よりの新年度態勢の中で検討していく。

(6) 被災生徒への対応

- ① 諸機関の支援を受けながら、物心両面から支援を継続する。
- ② 避難場所など学習困難な状況下にある生徒のため、校内に放課後の学習場所を確保する。

4. 進路指導

本年度の就職は不況下にあっても厳しさがあったが全員が内定した。数件の震災後の取り消しについても速やかに再受験・内定し、4月からは就職希望者全員がそれぞれの職場で活躍する予定である。進学も指定校推薦などもあり例年の実績を確保した。

なお、来年度の進路環境、特に就職については一層厳しさが予想されるので、進路指導体制を一層充実させる。

緊急医務室報告

山岸 美智子

普段、何気なく見ていた「避難所」という標識がこんな形で現出するとは、思ってもみないことでした。

当日私が学校にたどりついた時、校長が「トイレというトイレはうんこが山盛りであふれそうや、どないしたらええやろ」と頭をかかえていました。水なし、電気なし、ガスは無論のこと。

学校周辺は燃えさかっていましたし、人々は煤けた顔に布団を背負い、両手に荷物を提げて右往左往していました。学校も人々でごったがえしていました。

それにしても今度の震災でどれほどたくさんの人に助けられたことでしょうか。いざとなれば人間、こんなにいたわり合い、助け合うことができるのだ。人間もまだまだ捨てたものではないと、私の心には力が湧いてきました。

日本赤十字社の医療班の統率のとれたキビキビした動き、西市民病院看護婦の地域に根ざした丁寧な働きぶりなどは学校という狭い世界を仕事場にしていた私へ開眼をうながしてくれました。

○小会議室を緊急医務室に当て、次のような仕事をしました。

1. 必要な薬品、医療品の整備：保健室のものを運び込んで使用したが、不十分で保健所に電話をし、その都度運んでもらった。
2. 入院患者、重症者を保健所に連絡、入院の手配、搬送の世話。
3. 校内の保健活動：洗面所にうがい薬、手指の消毒液を常備、トイレ消毒、清掃。
[本校女子ボランティアが担当]
4. その他：次々に寄せられる医療器具、薬品類の救援物資の受取り、整理。

○医療に携わった人々



☆京大医療班 (1/20～1/23)

☆日赤医療班 (1/24～3/15)---西日本を中心にした11県20支部。当初は毎日14:00にチーム交替→1日交替→12:00までと次第に時間も人数も規模縮小。

☆西市民病院看護婦(1/21～3/29)---本校卒業生(S.63)であり、本校の避難者でもある進藤亜寿香さんのボランティアから始まり、1/21からは制度化され5人の当番制→2人→1人

☆西市民病院医師(3/9,3/14,3/16)---巡回医療(13:00～15:00)

☆東京都保健婦(2/1～3/29)---2人でチーム、地域も含めて避難者の話に耳を傾ける。
毎日→隔日→3日おき→なし

☆神戸医師会(3/16～3/25)---当番制1人(14:00～16:00)
毎日→隔日→なし

☆その他--- 神戸市柔道接骨医、神戸市鍼灸師、日赤ストレスチーム、神大精神科医、あったか湯入浴サービスなどのボランティアグループ。
なお、内科校医の河合先生からは、カルテ用紙や入手難の薬を頂戴したり聴診器までもお借りして大助かりしました。

○医療の日録（西市民病院の看護婦の記録ノートを参考）

- 1/17（火） 避難者、約900名。次々と増え続け、廊下にまであふれかえる。
- 18（水） ボランティアより薬品が届く。避難者の中の本校卒業生でもあり、看護婦ある進藤亜寿香さんが症状により、薬品を配る。
- 19（木） ボランティアの医師（氏名、専門、所属など不明）があらわれ、治療を行う。
- 20（金） 京大医療班が治療を行う。保健所より、学校に救護所をつくるよう依頼される。小会議室を救護所とする。診察を受けた者、60～70名。
- 21（土） 京大医療班+西市民病院の看護婦2名+進藤さんで医療に当たる。
- 22（日） 同上
- 23（月） 同上
- 24（火） 日赤--島根県支部(11:00~13:00) 約50名が受診
神戸市柔道接骨医の巡回(14:00~15:30) 10数名受診（骨折、打撲など）
西市民看護婦の配属者5名が決まり、当番制となる。
- 25（水） 日赤--岡山県支部(9:00 ~17:00---14:00 でチーム交替) 約80名受診
95歳の女性：排尿を減らすため水分を制限し、脱水症状を起こす。
- 26（木） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦2名 約60名受診
84歳男性：タール便、衰弱がひどく、川崎病院に入院。多発性胃潰瘍と診断される。
- 27（金） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦2名 約60名受診
便秘の訴え増加。95歳女性：6日間排便なし。
- 28（土） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦2名 約70名受診
47歳女性：右義眼の洗浄できず。生食水が手に入らず、鏡もなく、人目につかぬ場所もないままに、震災以来一度もできていないとの訴えあり。かつては日に2回実施していたという。ドクターが義眼及び眼窩を生食20ml×3回洗浄する。
- 29（日） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦3名 約70名受診
- 30（月） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦4名 約70名受診
風邪流行のきざし。73歳男性、衰弱激しく小原病院へ入院。
- 31（火） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦3名 約45名受診
喘息、肝炎、高血圧、神経痛などの持病の悪化が見られる。
73歳男性：発熱、脱水傾向、衰弱強く、徒歩すら困難。胃癌の疑い
川崎病院に入院
95歳女性：結滞あり。悪条件の下での生活が思いやられる。
- 2/ 1（水） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦3名
高齢で体が不自由、病状の重い人を、畳が敷いてあり、トイレ、食堂に近い和室に移す。（12名）
神経症（不眠、イライラ、うつ傾向）の訴え多し。
75歳女性：定期預金の満期金が焼けてすべて灰に。落ち込みがひどく要注意。

- 2(木) 日赤--岡山県支部、西市民看護婦2名
- 3(金) 日赤--広島県支部(岡山支部より規模縮小、医師1、看護婦3、他2)
西市民看護婦2名
85歳男性:高熱にて川崎病院入院(肺炎)視力、聴力障害、身障1級
84歳女性:避難所で滑り転倒、脚を骨折、入院
地域にも巡回医療。会下山公園のテント暮らしの1人は心筋梗塞の術後生活者である。他に男子ばかり、26名がテント生活。中の1人は肝機能障害で下肢に浮腫あり。
- 4(土) 日赤--福岡県支部、西市民看護婦2名 東京都保健婦2名 30名受診
71歳女性:左半身麻痺、脳梗塞の疑い、神戸日赤でCT検査。
- 5(日) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名 30名受診
45歳、25歳女性:精神科的疾患の可能性があるので、ドクターを要請する。
- 6(月) 日赤--大分県支部、西市民看護婦2名 28名受診
79歳女性:肺雑音あり。肺炎の疑いで救急車で日赤病院に運ばれる。
- 7(火) 日赤--福岡県支部、西市民看護婦2名
兵庫区役所よりボランティア来校(食事、トイレ歩行の介助など)
74歳女性:トイレにて転倒、上肢骨折、小原病院へ入院。
- 8(水) 日赤--長崎県支部、西市民看護婦2名 30名受診
45歳女性:仮設住宅の抽選にはずれたことでストレス大。体育館でも医務室でも不満をのべ立てる。精神科の往診が必要。
74歳女性:前の住居全焼、今度の住居も地震で全焼。その後不眠症状が続く。投薬が必要。
78歳女性:杖歩行、腰痛で入院。
- 9(木) 日赤--長崎県支部、西市民看護婦2名 30名受診
女性用更衣室の設置、食堂東側の控え室を当てる。
- 10(金) 日赤--長崎県支部、西市民看護婦2名 29名受診
78歳男性:夜間頻尿(2時間に1回)、付き添いの妻の疲労も大。泌尿器科の診察が必要。
入浴サービスの依頼をする。
日赤災害対策本部より5名来校。心療内科、災害によるストレスなどの精神面の援助のため。
- 11(土) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名、ストレスチーム巡回 29名受診
74歳女性:生保の件で東京の保健婦さんと福祉事務所へ行く。
ストレスチームが一人一人に声にかけ、精神的慰安への援助をする。
- 12(日) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名、ストレスチーム巡回 32名受診
36歳男性:2/10交通事故、小原病院で治療、松葉杖歩行。
82歳女性:下剤、止瀉薬乱用、薬は預かる。
67歳男性:4日間生き埋めの後救出、朝日病院に入院し、退院後本避難所へ。左肩部、右下腿に潰瘍状の創傷あり。
入浴介助者:11人
- 13(月) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名、ストレスチーム巡回
入浴サービス、介護入浴(設備ボランティア3名、介護ボランティア4名)来校



- 14 (火) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名 47名受診
高齢者への対策として、寝たきりにならないよう散歩の奨励、うがい、手洗いの励行、消毒液がオスバン液からウェルバス変更。
- 15 (水) 日赤--福岡県支部、西市民看護婦2名 33名受診
- 16 (木) 日赤--福岡県支部、西市民看護婦2名
67歳男性：タール便続くため救急車で川崎病院へ
- 17 (金) 日赤--福岡県支部、西市民看護婦3名、東京都立川保健所保健婦巡回
(2/14 ~19)
- 18 (土) 日赤--沖縄県支部、西市民看護婦2名
運動不足解消と気分転換もかねてラジオ体操を始める。(毎日午後、希望者対象)
- 19 (日) 日赤--沖縄県支部、西市民看護婦2名
68歳男性：入院中だが付き添いのボランティアが2日目から来なくなる
今後のことを保健所に依頼する。
- 20 (月) 日赤--沖縄県支部、西市民看護婦2名
45歳女性：祖母との関係、息子との関係でイライラ、精神科医の診察を受け、1時間程話を聞いてもらう。内服薬の投薬を続ける。
精神科医は湊川中学に常駐。
37歳男性：目はうつろ、精神状態不安定、内服薬の投薬を続ける。
- 21 (火) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名、あったか湯の入浴介助
- 22 (水) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名
- 23 (木) 日赤--熊本県支部、西市民看護婦2名
保健所からの通知：受診料は家が全・半壊、全・半焼、世帯主死亡の場合は申し出れば無料。入院費も食費、入院料は無料、部屋代、付添費は有料
95歳女性：岡山の親戚宅へ
37歳男性：精神不安の症状悪化、神大精神科医のフォローを受ける。
- 24 (金) 日赤--東京都大森支部、西市民看護婦2名
日赤の診療時間が12:00 までとなる。それ以降の診療は湊川中学へ(15:00 ~20:00 まで行う)。日赤の診療を次第に減らしている方針。
- 25 (土) 日赤--静岡県浜松支部、西市民看護婦2名
- 26 (日) 日赤--静岡県浜松支部
- 27 (月) 日赤--静岡県浜松支部
- 28 (火) 日赤--静岡県浜松支部
- 3/ 1 (水) 日赤--岡山県支部、西市民看護婦1名
- 2 (木) 日赤--岡山県支部、西市民看護婦1名
女性：蝶形紅斑症状で受診。
- 3 (金) 日赤--岡山県支部、西市民看護婦1名

57歳男性：難聴（身障1級）、補聴器紛失、下沢通りの吉田勝恵商店の無料サービスを受ける。

4（土） 日赤--岡山県支部、西市民看護婦1名

37歳男性：以前から精神状態が不安定だったが、症状が更に悪化、食堂で倒れる。14:00、福祉事務所の職員に付き添われて垂水病院に入院。

5（日）～8（水） 日赤--高知県支部、西市民看護婦1名

9（木）～12（日） 日赤--山口県支部、西市民看護婦1名

西市民病院巡回診療（月～金）、耳鼻科13:00～15:00

3/10--85歳男性：これまで世話をしていた孫娘が、ケンカをして帰ってしまふ。食事、排便の世話をする者がいなくなり、和室の他の人からの苦情あいつぐ。

13（月）～15（水） 日赤--広島県支部、西市民看護婦1名

3/14、西市民病院巡回診療、整形、皮膚科 13:00～15:00

3/15 12:00 で日赤の巡回医療終了となる。

77歳女性：震災のショックで難聴となる。補聴器の依頼あり。

85歳男性：明石の老人ホームへ入所、三ヶ月の予定。

16（木） 西市民病院巡回診療（整形、眼科）、兵庫区医師会巡回（14～16、毎日）基本線として健康相談であって、地域の医院を紹介することが方針。そのため受診者はほとんどなし。

18（土） ストレスチーム来校

19（日）、20（月） 10:00～12:00 保健所より避難者全員の健康診断

22（水） 80歳男性：入院先で亡くなる。

25（土） 医師会健康相談は火、木、土 14:00～16:00 に変更。

西市民看護婦の健康観察巡回も回数を減らし、2日に1回→3日に1回→なしという形で自然消滅をもっていく方針。

26（日） 73歳男性：入院先で亡くなる。

45歳男性：不眠の訴え、精神科の医師に来てもらう。ゆっくり話を聞いてもらい落ち着く。

29（火） 保健所より保健婦が西市民看護婦の申し送りを受けにくる。その折、カルテを全部持ち帰り、保健所に保管することになる。
東京都からの保健婦の巡回は今日で終わりとなる。
西市民看護婦の常駐も今日で終わりとなる。
約3ヶ月半にわたる救急医務室もその役割を終える。



記録を辿ってみると、本当にたくさんの人々に援けられて救急医務室は成り立っていました。特に西市民病院の看護婦の活躍は非常に有り難かった。終始メンバーが変わらなかったために、長期間にわたって継続して避難者の健康に眼をくばってもらうことができました。避難者の顔と名前、年齢、既往症、病状などを知り、次々と訪れる医療チームに情報が提供できたということも、連携を図るのに役立ったと思います。若い彼女達の働きを思い出して、今更ながらにその使命感の強さに心打たれます。

震災による生徒の被災状況について、本校同和委員会を中心に調査が行われました。結果のまとめがありますので掲載します。[1ヶ月後、3ヶ月後の調査があります]

平成7年2月23日

保護者各位

兵庫県南部大震災被災状況調査のお願い

神戸市立神港高等学校

校長 福尾 康之

大震災から一ヶ月余が経過しましたが、まだまだ大変な多大な労苦を強いられた毎日をお送りのこと、あらためてお見舞い申し上げます。本校も校舎、施設、設備全般にわたり甚大な被害を受けましたが教職員一同全力で生徒たちが安心して学校生活を送れるよう努力を続けています。つきましては、今後の学校運営、就学援助等に生かしていくために、また生徒の置かれている状況を把握しきめ細かな指導に生かしていくために被災状況調査をお願いすることになりました。思い出すのも恐ろしい震災でまだまだ心の余裕もなく、プライベートな部分にふれることもありお答えにくい部分もあると思いますが趣旨をご理解いただきご協力をお願いします。ご回答いただいたアンケートについては上記の趣旨に沿うよう利用のみで、個人的な状況を学校外部に出すようなことは一切ありませんのでよろしくご理解、ご協力をお願いいたします。(記入されましたら3月4日(土)までに担任までご提出下さい)

L・C・D科()年()組()番 生徒氏名()

○調査(該当項目の番号①②・・・に○印を入れて下さい)

(家屋について)

Q1. 区役所等に被災(罹災)届けを申請し、被災(罹災)証明を受けましたか

①受けた ②受けない ③申請中 ④役所の調査待ち ⑤その他()

Q2. Q1で ①受けた と回答された方にお尋ねします。

認定内容は次のどれに該当しますか

①全壊 ②全焼 ③半壊 ④半焼 ⑤一部損壊 ⑥一部焼失
⑦その他()

Q3. Q1で ①受けた と回答された方以外にお尋ねします。

ご自身で判断して、被害状況は次のどれに該当しますか。

①全壊 ②全焼 ③半壊 ④半焼 ⑤一部損壊 ⑥一部焼失
⑦その他()

Q4. 今後の住居についてお尋ねします。

まだまだ、不確かな部分もあると思いますが、当面の居住状況は次のどれに

該当しますか。

- ①震災前に住んでいた住居に居住できる
- ②震災前後で居住地が変わった

Q 5. Q 4で ②震災前後で居住地が変わった と回答された方にお尋ねします
居住地あるいは避難先を記入して下さい。

()

(生 計 に つ い て)

Q 6. 震災前の主たる生計維持者の収入形態はどれに該当しますか

- ①会社員 (給与所得者) ②パート収入 (給与所得者) ③自営業
- ④その他 ()

Q 7. 震災後収入減となりましたか

- ①まったく収入がなくなった
- ②大きく減である (1/2 以上減収の見込)
- ③かなり減である (1/3 以上～1/2 以下減収の見込)
- ④やや減である (1/3 以下減収の見込)
- ⑤変わらない
- ⑥その他 ()

Q 8. Q 7で ①～④のいずれかに回答された方にお尋ねします

よければ、状況を記入して下さい (例: ○勤務先がつぶれて倒産して解雇された、○自宅待機の状況である、○自営業で店がつぶれ営業の見通しがたたない・・・等)

(そ の 他)

Q 9. 今回の震災に伴って、ご子息が高校生活を送るにあたりお困りの点、学校に望みたい点があればご記入下さい。(例: ○制服が失われた、○家庭学習の場が無い、○学用品が失われた・・・等)

(ご協力ありがとうございました)

阪神・淡路大震災被災状況調査
(保護者・平成7年2月23日～実施) 結果について

1. 震災による生徒の被災状況を把握するため1、2年生の保護者に協力を依頼し、提出をお願いしたところ以下のような提出状況であった。

(提出状況)

全体 調査対象数 588 提出数 498 回収率 84.7%

(任意提出であったにもかかわらず、多くの保護者の方にご協力いただいた)

1 学 年			
クラス	在籍数	回収数	回収率(%)
L 1	40	34	85.0
L 2	38	20	52.6
L 3	40	32	80.0
L 4	40	33	82.5
C 1	39	34	87.2
C 2	40	40	100.0
D 1	40	21	52.5
計	277	214	77.3

2 学 年			
クラス	在籍数	回収数	回収率(%)
L 1	39	37	94.9
L 2	40	38	95.0
L 3	37	24	64.9
L 4	39	38	97.4
C 1	36	35	97.2
C 2	36	28	77.8
C 3	44	44	100.0
D 2	40	40	100.0
計	311	284	91.3

2. 選択回答項目の調査結果について学年別とその合計の結果は以下の通りであった。(質問内容は別紙参照。回答項目欄の0については無回答を示す)

1 学 年						
回答項目	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 6	Q 7
①	95(44.4)	28(13.1)	6(2.8)	174(81.3)	158(73.8)	12(5.6)
②	89(41.6)	5(2.3)	0(0.0)	35(16.4)	10(4.7)	18(8.4)
③	15(7.0)	42(19.6)	13(6.1)		34(15.9)	33(15.4)
④	9(4.2)	3(1.4)	0(0.0)		12(5.6)	43(20.1)
⑤	5(2.3)	21(9.8)	40(18.7)			103(48.1)
⑥		0(0.0)	0(0.0)			4(1.9)
⑦		1(0.5)	36(16.8)			
0	1(0.5)	114(53.3)	119(55.6)	5(2.3)	0(0.0)	1(0.5)

2 学 年						
回答項目	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 6	Q 7
①	143(56.4)	47(16.5)	7(2.5)	210(73.9)	175(61.6)	29(10.2)
②	100(45.8)	3(1.1)	1(0.4)	57(20.0)	21(7.4)	30(10.6)
③	19(6.7)	67(23.4)	20(7.0)		62(21.8)	32(11.3)
④	8(2.8)	0(0.0)	0(0.0)		16(5.6)	57(20.1)
⑤	11(3.9)	32(11.3)	44(15.5)			122(43.0)
⑥		0(0.0)	0(0.0)			8(2.8)
⑦		0(0.0)	22(7.7)			
0	3(1.1)	135(47.5)	190(66.9)	17(6.0)	0(0.0)	6(2.1)

1・2 学 年 計						
回答項目	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 6	Q 7
①	238(47.8)	75(15.1)	13(2.6)	384(78.5)	333(66.9)	41(8.2)
②	189(38.0)	8(1.6)	1(0.2)	92(18.5)	31(6.2)	48(9.6)
③	34(6.8)	109(21.9)	33(6.6)		96(19.2)	65(13.1)
④	17(3.4)	3(0.6)	0(0.0)		28(5.6)	100(20.1)
⑤	16(3.2)	53(10.6)	84(16.9)			225(45.2)
⑥		0(0.0)	0(0.0)			12(2.4)
⑦		1(0.2)	58(11.6)			
0	4(0.8)	249(50.0)	309(62.0)	22(4.4)	10(2.0)	7(1.4)

特に注目すべきは、Q 2 ①②③④を合計すると1・2年生の39.2%に相当する家屋が全・半壊あるいは全・半焼の罹災証明による被害の認定を受けていること。また、生計についてはQ 7の①②を合計すると17.8%に相当する家庭において①全く収入がなくなったあるいは②大きく減である（1/2減収の見込み）と答えたことで、今回の地震によって子供達の生活基盤が大きく破壊されたことを表している。調査時点が2月23日ということで、全市的な復興のあゆみとあわせて生計については今後徐々に改善のきざしはみえてくるものと思われるが、家屋については今後も長期間にわたり厳しい状況が続くものと思われる。

生徒の今後の就学保障に生かすというこの調査の趣旨にもとづき、われわれ教師は今後も生徒の生活実態を丁寧に把握し教育活動に全体にわたって生かしていくことが求められていると考える。

3. クラス別集計について

- ①表中の左端の番号は出席番号である。
- ②選択項目による質問（Q 1、Q 2、Q 3、Q 4、Q 6、Q 7）については表中に答えた番号の数字を記してある。Q 6の質問（主たる生計維持者）の質問については2つ選択回答（①会社員と②パート収入）をした者が若干みられたが父母両方の収入形態を答えたものと推察されるので①会社員を選択したものとみなした。0はその項目について無回答であったことを示している。また*の記号は調査回答の提出がなかった者である。
- ③表の下段の数字はクラスの集計である。
- ④（記入欄）については、回答いただいた記述をほぼ原文のまま記述してある。表中の（記入欄）のア、イ、・・・の記号については、表の右の文章の冒頭の記号ア、イ・・・と対応している。

平成7年4月10日

保護者各位

阪神・淡路大震災被災状況調査のお願い

第一学年主任 古溝 茂

同和教育主担 小薮 敏

大震災から三ヶ月近くが経過しましたが、まだまだ大変な労苦を強いられ生活再建のためにご苦労の多いことと思います。あらためてお見舞い申し上げます。本校も校舎、施設、設備全般にわたり甚大な被害を受けましたが新入生が希望を持って高校生活を送れるよう、教職員一同全力で努力を続けてまいりました。また、約300名余の被災者の方々が体育館を中心に現在も避難生活を送られています。

つきましては、今後の学校運営、就学援助等に生かしていくために、また生徒の置かれている状況を把握しきめ細かな指導に生かしていくために被災状況調査をお願いすることになりました。プライベートな部分にふれることもありお答えにくい部分もあると思いますが趣旨をご理解いただきご協力をお願いします。ご回答いただいたアンケートについては上記の趣旨に沿うよう利用のみで、個人的な状況を学校外部に出すようなことは一切ありませんのでよろしくご理解、ご協力をお願いいたします。（記入されましたら4月16日（土）までに担任までご提出下さい）

L・C・D科 1年（ ）組（ ）番 生徒氏名（ ）

○調査（該当項目の番号①②・・・に○印を入れて下さい）

（家屋について）

Q1. 区役所等に被災（罹災）届けを申請し、被災（罹災）証明を受けましたか

①受けた ②受けない ③申請中 ④役所の調査待ち ⑤その他（ ）

Q2. Q1で ①受けた と回答された方にお尋ねします。

認定内容は次のどれに該当しますか

①全壊 ②全焼 ③半壊 ④半焼 ⑤一部損壊 ⑥一部焼失
⑦その他（ ）

Q3. Q1で ①受けた と回答された方以外にお尋ねします。

ご自身で判断して、被害状況は次のどれに該当しますか。

①全壊 ②全焼 ③半壊 ④半焼 ⑤一部損壊 ⑥一部焼失
⑦その他（ ）

Q4. 現在の住居についてお尋ねします。

まだまだ、不確かな部分もあると思いますが、現在の居住状況は次のどれに該当しますか。

①震災前に住んでいた住居に居住している
②震災前後で居住地が変わった

Q 5. Q 4で ②震災前後で居住地が変わった と回答された方にお尋ねします

①現在の居住地についてさしつかえなければご記入下さい。(例：・親戚宅に世話になっている、・実家に避難している、・当面〇〇小学校の避難所で生活をする)

()

②将来的(ご子息が高校在学中の三年の間)に居住地はどうされますか

①震災前の居住地に戻る予定である

②他の居住地へ転居の予定である

③まだまだ予定がたたない(当面現在のままである)

④その他 ()

(生計について)

Q 6. 震災前の主たる生計維持者の収入形態はどれに該当しますか

①会社員(給与所得者) ②パート収入(給与所得者) ③自営業

④その他 ()

Q 7. 震災直後は収入においても様々な変動があったと思いますが、三カ月近くたった現在の収入の状況は

①まったく収入がないままである

②大きく減である(1/2以上減収)

③かなり減である(1/3以上～1/2以下減収)

④やや減である(1/3以下減収の見込)

⑤変わらない

⑥その他 ()

Q 8. Q 7で ①～④のいずれかに回答された方にお尋ねします

よければ、状況を記入して下さい(例：○勤務先がつぶれて倒産して解雇された、○自営業で店がつぶれ営業の見通しがたたない、○遠隔地への勤務を命ぜられた・・・等)

(その他)

Q 9. ご子様が高校生活を送るにあたりご心配の点、学校に望みたい点があればご記入下さい。

(ご協力ありがとうございました)

阪神・淡路大震災被災状況調査

(保護者・平成7年4月10日～実施) 結果について

1. 旧学年の1・2年生と同様、震災による生徒の被災状況を把握するため新1年生の保護者に協力を依頼した結果、提出状況は全員の保護者(留年生1名を除く)から提出いただいた。質問項目の内容については、Q5②の将来的(ご子息が高校三年間の間)な居住地についての問をつけ加えたのみで他は旧学年の調査内容と同じである。
2. 選択回答項目の調査結果について学年の合計の結果は以下の通りであった。(質問内容は別紙参照。回答項目欄の0については無回答を示す。また()内の数字は%比率を示す)

新 1 学 年							
略 題	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5②	Q 6	Q 7
①	217(77.5)	53(18.9)	4(1.4)	231(82.5)	18(6.4)	191(68.2)	19(6.8)
②	57(20.4)	1(0.4)	0(0.0)	44(15.7)	14(5.0)	15(5.4)	14(5.0)
③	0(0.0)	84(30.0)	10(3.6)		27(9.6)	53(18.9)	24(8.6)
④	2(0.7)	0(0.0)	0(0.0)		6(2.1)	18(6.4)	59(21.1)
⑤	4(1.4)	76(27.1)	17(6.1)				158(56.4)
⑥		0(0.0)	0(0.0)				5(1.8)
⑦		0(0.0)	26(9.3)				
0	0(0.0)	66(23.6)	223(79.6)	5(1.8)	215(76.8)	3(1.1)	1(0.4)

(比較資料)

旧 1・2 学 年 計						
略 題	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 6	Q 7
①	238(47.8)	75(15.1)	13(2.6)	384(78.5)	333(66.9)	41(8.2)
②	189(38.0)	8(1.6)	1(0.2)	92(18.5)	31(6.2)	48(9.6)
③	34(6.8)	109(21.9)	33(6.6)		96(19.2)	65(13.1)
④	17(3.4)	3(0.6)	0(0.0)		28(5.6)	100(20.1)
⑤	16(3.2)	53(10.6)	84(16.9)			225(45.2)
⑥		0(0.0)	0(0.0)			12(2.4)
⑦		1(0.2)	58(11.6)			
0	4(0.8)	249(50.0)	309(62.0)	22(4.4)	10(2.0)	7(1.4)

3. クラス別集計について

①表中の左端の番号は出席番号である。

②選択項目による質問(Q1、Q2、Q3、Q4、Q5②、Q6、Q7)については表中に答えた番号の数字を記してある。Q6の質問(主たる生計維持者)の質問については2つ選択回答(①会社員と②パート収入)をした者が若干みられたが父母両方の

収入形態を答えたものと推察されるので①会社員を選択したものとみなした。0はその項目について無回答であったことを示している。また9の記号は調査回答の提出がなかった者である。

③表の下段の数字はクラスの集計である。

④（記入欄）については、回答いただいた記述をほぼ原文のまま記述してある。表中の（記入欄）のア、イ、・・・の記号については、表の右の文章の冒頭の記号ア、イ、・・・と対応している。

4. 集計結果についての若干のコメント

①Q1の被災証明をうけましたかという質問に関しては、旧1・2年生の調査時点よりも約50日余のずれがあるため、新1年生では大幅に増加しており、被災者の認定に対する積極的な申し出があったことをうかがわせる。

②Q2の全半壊、全半焼については新1年生では合計（回答項目①～④選択）49.3%にもおよび、約半数の生徒が家屋の大きな損壊の被害を受けている。（旧1・2年生の調査時点では39.2%）

③Q4.の現在の居住地については、震災前に住んでいた住居に居住している者（回答項目①選択）が新1年生では82.5%、旧1・2年生では78.5%で、比較して4%の増加ではあるが、Q1の認定の程度の増加と合わせて考えると、徐々にではあるが一時の仮住居からもとの住居へ復帰していることがうかがえる。

④Q5②将来的な居住地については、約1割〔9.6%〕（回答項目③）の者が、まだまだ予定がたたないと答えており、今後の指導上の配慮を要する点にあげられる。

⑤Q7の収入状況については、1/2以上減収と答えた者（回答項目①②選択）が新1年生では11.8%、旧1・2年生では17.8%であること、また、変わらないと答えた者（回答項目⑤選択）は新1年生で56.4%、旧1・2年生では45.2%であったので震災後の日数の経過に応じて非常に厳しい状況に置かれていた家庭が徐々に回復に向かっていることがうかがえる。が、まだ1割の家庭が1/2以上の減収の状況におかれているので厳しい状況は依然として続くものと思われる。この点についても生徒指導上の配慮が必要である。

新年度に入り、避難者対策委員会を解散し、新たに震災対策委員会を設置した。メンバーは、西岡、河田、山本（事務）、山岸、各務、谷口睦、門口さん、原さんとし、今後の避難者の対応にあたることにした。

震災対策委員会概要

第1回（4. 11）

- ・グラウンド倉庫の住民、ネコ5匹を本部（体育館更衣室）に移動してもらう。その後、倉庫にスミチオン散布。
- ・食堂の使い方について
- ・電話（避難者用）の撤去の段取りが進んでいる。
学校の管理上、問題があるため。公衆電話のある本館はシャッターをおろす。
- ・物干しは今週中に憩いの広場を中心に設置する。
- ・駐車場についてはフェンスとの間隔をあける必要があり、東側も非常に危険である。
- ・現在の避難者数--- 約280人
- ・ゴミについては学校用と避難者用とに分ける。
- ・シャワー--- 今月中に大阪ガスが手配をし、のち撤去。
- ・転出状況--- 名簿確認に回らなければならない。その為、夜に行わなければならない。
4/24、28に3月末の仮設当選者の発表後転出があるかもわからない。又統廃合の問題はわからない。
新しく来られる方については、門口さんをお願いしたい。
避難者の方々も仮設の下見に積極的である。
- ・医務室--- 4月15日で終了。
- ・学習室--- 進路指導室の上を使用する。
- ・健康状態--- Nさん（会下山小学校へ）
Sさん（入院中）



第2回（5. 2）

- ・避難者個別面談調査の実施への協力依頼について
避難者の数は200人をきっている。荷物だけを置いている人もいる。
- ・会議室の移動--- 和室へ
- ・食堂の利用はうまくいっている。
- ・保健所の保健婦のルートが明確でない。結果についての報告は受けていない。

第3回（6. 20）

- ・現在の避難者数--- 100人。月末には80人になる予定。
- ・仮設住宅に80人（30家族）が当たらず。7月上旬に第5次募集受付。下旬に発表。
第5次は市外となる。50代以上の高齢者が多く残る。
- ・名簿をコピーで受け取る。
- ・避難場所を体育館へ集中させる件
現在、和室3人---→1人仮設住宅へ、2人は体育館へ
会議室は今月中にあける。
和室の畳替え 31枚、465000円
- ・学校の集合場所がない--- 小体育室、11人はあけられるかどうか？
- ・冷風機とタオルケットの配給予定。
- ・大会議室をまずあける
- ・和室の整備--- 一部畳を敷き直し、部活動が行えるようにする。
- ・体育館は暑くなるが、現状のままで止むをえない。徐々に減少するのではないか。

- ・蚊、蝇、ダニが出てきつつある--- 保健所に連絡をする。
- ・電話は避難所のある限り撤去しない。
- ・駐車場の整備--- 不法駐車あり。車番号を控えて警察に連絡すること。
- ・蛍光灯切れ--- 対策本部で準備する。しかし体育館の水銀灯などは困難。
- ・電気が半日止まる予定。(7/2 か 7/9の予定)

第4回(7.3)

- ・和室の畳替えについて
- ・8月中には避難所解消の見通し。東灘区役所の避難所での対応の仕方は非常に懇切丁寧であると聞かすが、兵庫区役所の対応ははっきりしていない。5次仮設の募集においても一方的な依頼であり、避難者として納得できない事柄が多く、一貫性、持続性がない。
- ・本校としては区役所をあてにできないが、生徒の活動を展開するには体育館をあけてもらいたい。
- ・体育館は38名となっており、下のホールに移動できないこともない。
- ・駐車場は縮小できるのではないか(プレハブ南側)
- ・学校だけでなく、区役所の方も会議に参加してもらってはどうか。

第5回(7.27) --- 職員会議での報告事項

- ・現在の状況--- 30世帯79人(7/19に30人が仮設に当選)
- ・8/20までは食事供給がある。
- ・8/21から避難所は待機場所と名称変更される。
- ・体育館明け渡しは8/20までは待つこととし、以降は学校の方針に従ってもらう。
- ・8/26、体育館明け渡し予定。(男女バスケ、バレー部に手伝ってもらう。)
- ・和室は明日より使用可能。
- ・駐車場については7月29日に避難者の車を仮設校舎南に移動させる。教師の車は西門にお願いしたい。
- ・終わりに避難者と生徒とのトラブルが一件もなく素晴らしい幕引きとしたい。

第6回(8.31) --- 職員会議での報告事項

- ・現在の状況--- 小体育室9世帯
和室 1世帯 計21名
- ・グラウンド駐車は4台
- ・自炊場所--- 食堂の通路、洗面台を利用
- ・駐輪場に約20台、所有者不明のものがある。憩いの広場へ移動するので9/2より生徒が従来通り利用できることになる。
- ・待機所には市職員2名、ガードマン1名が交互に駐在する。



多くの問題を抱えて新年度がスタートしました。体育館棟では多数の避難者が生活を続けられており、入学式も摩耶兵庫高校の体育館をお借りして挙行了しました。グラウンドには仮設校舎が建てられ、生徒の学校生活も何かと不便な状況下で何とか一学期が終了しました。この間、避難されている方々とも何度も話し合いがもたれました。

最後に、避難者対策委員会の中心となっていたいただいた西岡先生の「今後の避難所対策」で締めくくりたいと思います。

今後の避難所対策

神港高等学校避難者対策委員会・西岡 幸平

阪神淡路大震災が発生してから半年が過ぎた。毛布にくるまって何とか寒さを凌いでいたあの日から、蒸し暑くてべとべとする今日まで、季節もすいぶん移り変わった。そんな半年間を神港高校に避難されている方々は、そして生徒達・教職員は、どのように過ごしてきたのであろうか。

震災直後から、私が彼らに常に言い続けてきたのは、「後をふり返るな。前だけを見て進もう。」ということであった。家族を亡くした方、家や財産を失った方、さらに職場までもなくしてしまった方--- 皆、大変厳しい現実にはさらされている。しかし、いくら嘆き悲しんでもそれらは元には戻らない。だから、後ろをふり返らず、前だけを見て進まなければ、何も始まらないのである。

同じ被災者でも、自宅や仮設住宅の住人に比べ、避難所で暮らさねばならない人々の状況は、はるかに苛酷であることは言うまでもない。劣悪な環境や慣れない人間関係などで相当強い心理的ストレスがたまっている。その上、失業率が高く、生活状態も悪化している。このような避難者に対し、学校側が何をしなければならないのか。

神港高校では、体育館棟の大フロア、小体育室、大会議室、和室を避難者の居住場所に充ててきた。震災直後は約600人だった避難者の数も、半年後の現在では30家族79人にまで減った。この間、我々は「環境改善」を常々念頭に置いて避難者に対応してきたつもりである。避難者の代表、ボランティア、行政等と連絡をとり合い、限られた設備の中で少しでも快適な生活を模索してきた。以下に述べるのは、その実践例である。

1. 全世帯に畳を敷くことにより、防寒と住み心地良さを追求。
2. 断熱材で各世帯を仕切ること、少しでもプライバシーが確保できるように努めた。
3. 偏りがちな食生活を改善するための炊き出しを頻繁に行った。
4. 入浴とまではいなくても、移動シャワー車を一定期間駐在させ、衛生面にも配慮。
5. 物干し場所の新設。
6. グラウンドの駐車スペースを整理して、避難者の駐車を確保。
7. 自警団を作り夜の見回りをを行い、少しでも安心できる生活を送ってもらえるよう努めた。等々---

果たしてこの夏、市から提供された50台の扇風機で暑さに対する環境改善はなされるものか。猛暑による病気や食べ物の腐敗等にどう対処していけばよいのか。さらに検討を要するであろう。

次に、生徒の側に目を移してみると、彼らもまた全員が被災者なのである。教育を受ける場でもある学校が被災し、(プール全壊、中館半壊)体育館や運動場は使えず、震災前よりは、はるかに劣悪な環境で学校生活を送らねばならなくなった。特に、運動部の生徒達は練習場を求めてジブシーのように転々とし、交通費等の負担もかなりのものであった。そのため意に反して退部せざるをえない生徒も出てきた。生徒達もまた、多大な心理的ストレスを被ってきたのである。

しかし、このような状況にあっても、避難者と生徒達の間には、この半年トラブルは一切起きていない。これは注目すべき点である。つらい思いをしている者どうしの思いやりお互いに一步譲り合う気持ちが、避難者と生徒をうまく共生させたのではないだろうか。具体的には次のような事例がある。

まず、学校食堂の利用であるが、限られたスペースで、避難者、生徒、教職員がそれぞれの時間帯を決め、混雑することなくお互いに気持ちよく利用している。

また、仮設校舎が建って半分以下になったグラウンドでは、体育授業等で生徒が利用して

いる時間帯は、避難者の車の出入りは一切しないというルールを避難者の皆さん自らが作ってくれた。

そんな中で私が一番印象に残っている出来事は、2月末の卒業式であった。式を挙げるはずの大フロアには当時避難者、約150人が生活していた。しかし、卒業生諸君に対し、神港高校以外の場所で卒業式を行うのは忍び難い。3年間慣れ親しんできた母校から巣立たせてやりたい。さてどうするか。教職員の間でいろいろ議論した結果、大フロアから教室棟へ移動してもらうことにした。移動は手間ではあるが、これからどの位続くかわからない避難所生活を考えると、震災直後からの乱雑とした住み方よりは、きちんと各所帯を区切り、寒さに備えたほうが、避難者にもよいのではないかと考えたのである。数回にわたり説明を行い、賛同を得、何とか本校で卒業式を挙行することができた。避難者の移動に際しては、教職員と生徒が入念に聞き取り調査を行い、移動時の手伝いも行った。このような誠意が避難者に伝わったのか、皆さん、快く応じて下さった。

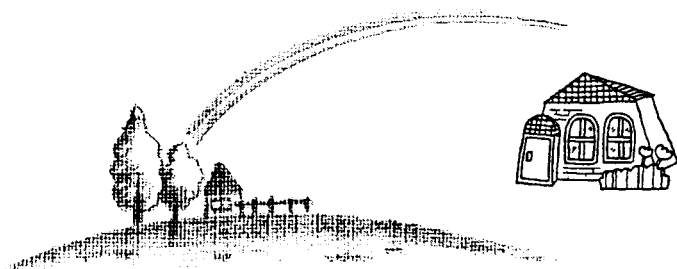
また、避難者の中にも、生徒達に申し訳ない、神港高校でお世話になって有り難いと思って下さる方が大勢おられ、そういう気持ちが生徒や教職員にひしひしと伝わってくるのである。学校内の清掃はその顕著たるもので、現在校舎は震災前より美しい。

震災は大きな爪痕を残したが、その一方で生徒達若い世代には学ぶことも多かったようである。マイナス面ばかり強調するのではなく、こういったプラスの面も大切に育てていくことが我々の責務であると思う。

今後、学校が地域の避難所としての役割を果たすために、何をしておかねばならないか、私の意見を述べておく。

これまでにあまりに備えが少なかったことを反省し、少なくとも断熱材、畳等最低限居住に必要な物資を恒久的に確保すること。勿論、各関係機関との連絡を密にしながら。これにはかなりの収納スペースを要するであろうが、学校の敷地内であれば工夫次第で何とか作り出せるはずである。また、年に一、二回虫干しを兼ねて、備蓄物資の点検を行い、防災の意識を喚起する。いざ大災害という時の教職員の動き方を徹底し、地域住民の代表者や各関係機関とも常に連携できる体制を確保しておく。これらのことが非常に肝要かと思われる。

最後に、避難者、生徒、教職員がこの半年間うまく共生できたのは、ひとえに、神港高校教職員が一致団結し努力してきた成果に他ならない。この成果を後世に伝えることが、我々のこれからの務めではないかと考えている。



神戸市長

笹山 幸俊 様

神戸市立神港高等学校

同窓会長 柄谷 道一

神港高等学校の復興についての要請

この度の大震災による神戸市の復旧・復興と激務をこなされておられますことに對し、敬意を表しますとともにご苦労の大きさを拝察致すところでございます。

また、高等学校に對しましても格別のご配慮を賜っておりますことを感謝致すところでございます。

さて、90年の歴史を誇り、各界に多くの人材を輩出してきた、わが神港高等学校でございますが、甚大なる被害を蒙りました。復旧につきましては、教育委員会のご配慮で進めていただいております。

しかし、単なる復旧では、営々と築いてまいりました輝ける神港高等学校の存在は薄れてまいります。

少子化減少は拭うべくもなく、学級減は目前に迫っております。近隣の県立高等学校（兵庫高等学校、夢野台高等学校）もそれに備えて魅力ある学校づくりとして新築いたしました。

この様に諸般の状況から勘案いたしましても、わが神港高等学校も安閑としてはおられません。県立高等学校に比して遜色のない総合高等学校の構築を検討いたしております。どうかすばらしい市立高等学校を実現させるべくご努力を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫区内に開放型校舎とする総合高校化構想

1. 規模並びに所在地 50,000平方メートル 兵庫区市街地の交通至便の場所
2. 兵庫区内を選ぶ理由

神港高等学校は7割の生徒が兵庫区、長田区からの通学で他地区への移転は考えられない。

3. 学校規模

- (1) 学級数 8～10クラス程度（部活動等活気ある学校とするためには）
- (2) 教育内容 新しいタイプの高等学校 普通科系・商業科系を基本にした多様な学科を設置する。

兵庫区内に開放型校舎とする総合高校化構想の実現に関する要請（案）

90年の歴史を誇る母校神戸市立神港高等学校は阪神大震災により甚大なる被害を受けました。

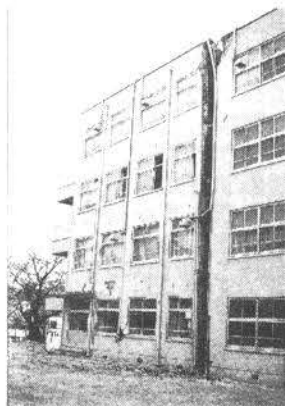
その復旧に当たって、単なる復旧にとどまらず、これを契機として魅力ある学校づくりが緊要の課題と考える。

よって、別紙「神港高等学校の復興についての要請」について、笹山幸俊神戸市長にその実現を総会の総意として求める。

以上決議する。

平成7年7月22日

平成7年度神戸市立神港高等学校同窓会総会



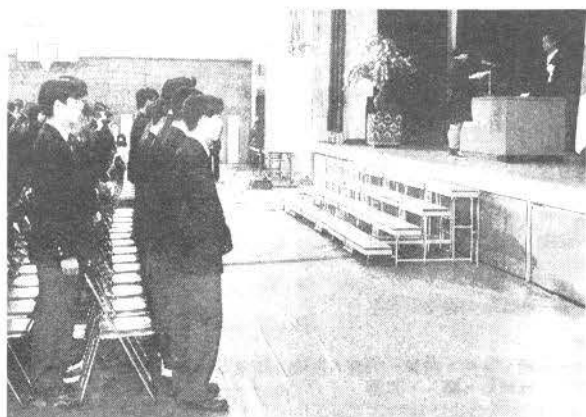
中館の被害状況（1月末）

本校の被害状況



中館（西部分）・プールの解体作業（2月11日）

震災に負けずに頑張っている学び舎



緊張の入学式（4/10）



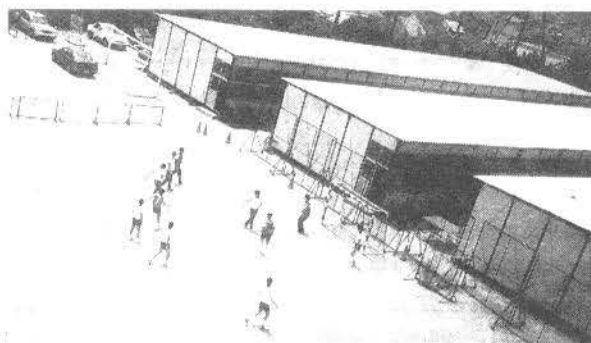
陸上競技部の練習風景（5月）



喜びの合格発表（5/26）



対面式（4月11日）
本年度生より男子制服を変更



仮設校舎

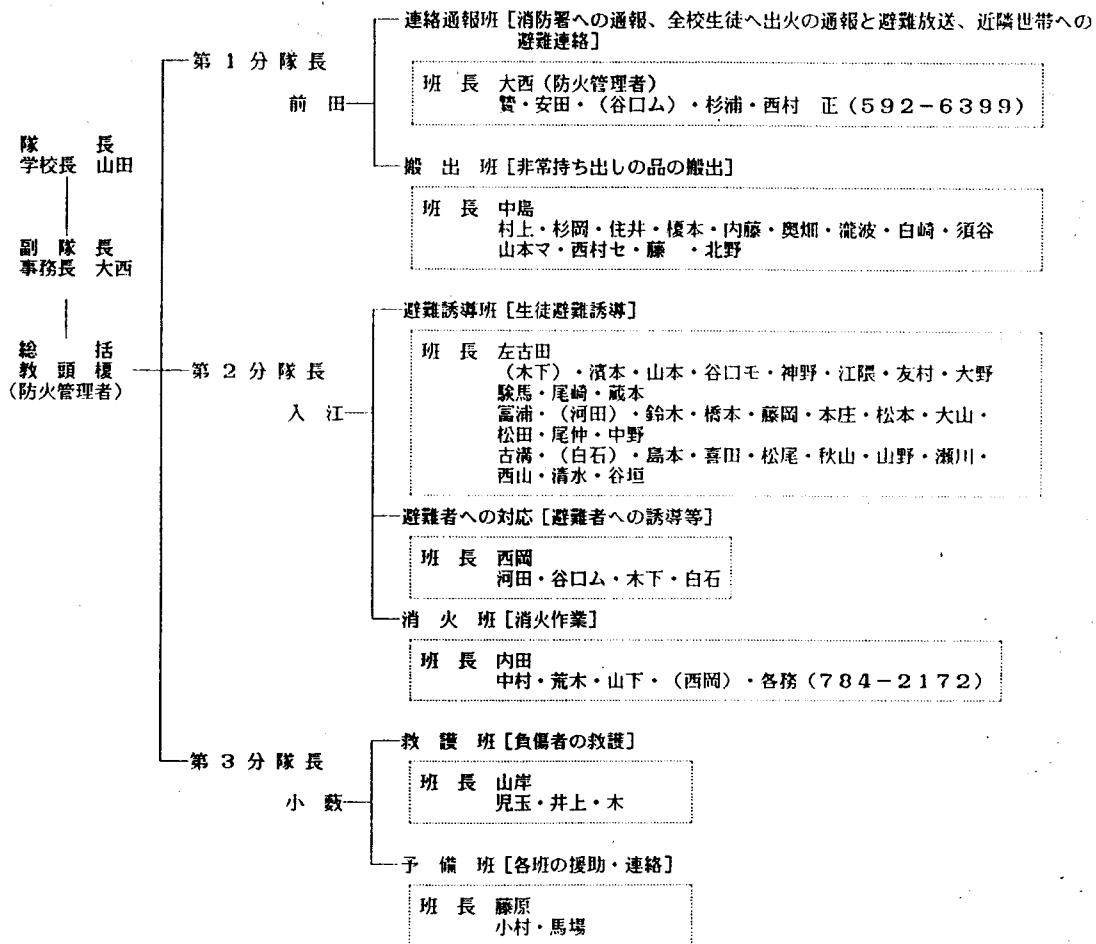
平成 7 年 度

防 災 組 織 表

神戸市立神港高等学校

非常連絡 5119 (本庁第3庁舎2階)
 兵庫消防署 512-0119
 兵庫警察署 570-0110 (短縮 699)
 兵庫区役所 511-2111 (短縮 647)
 総合警備保障 331-4421 (短縮 651)

本校舎 579-2000
 栄 寮 994-0084 (短縮 600)
 学校長 621-1500 (山田校長)
 防火管理者
 教 頭 591-7222 (榎 教頭)
 事務長 0794-92-2017 (大西事務長)



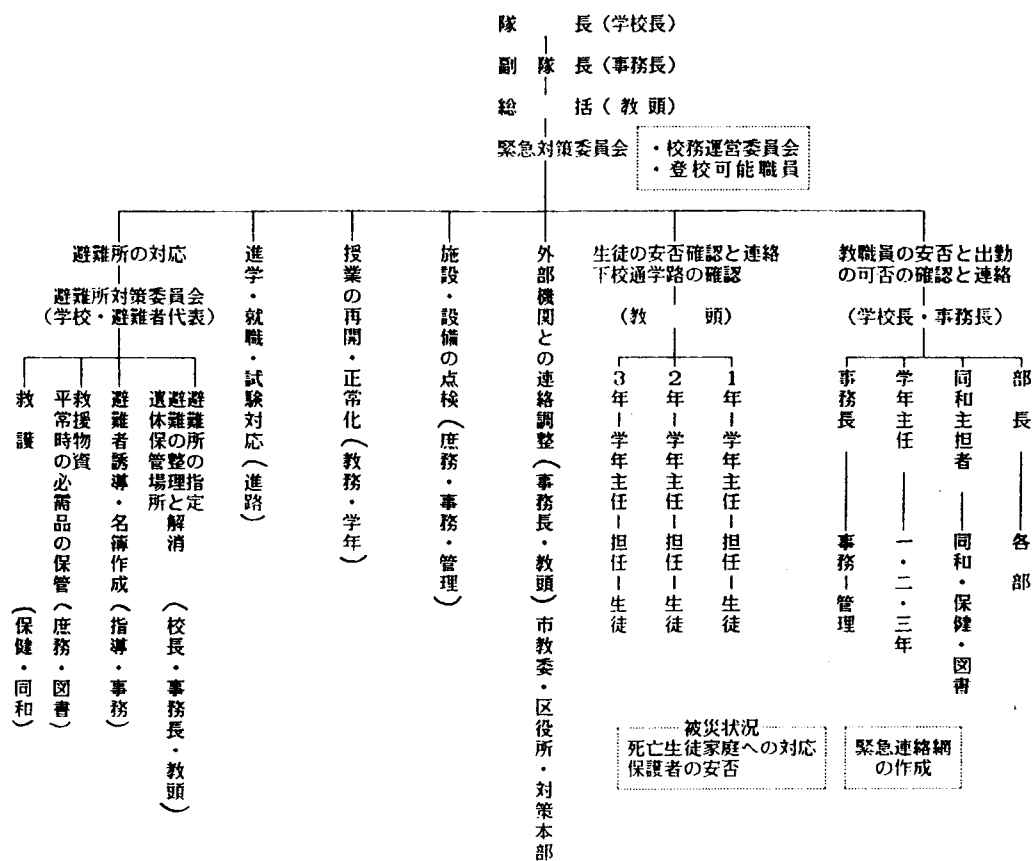
連絡文案

「こちらは、兵庫区会下山町3丁目の市立神港高等学校です。今、*校舎の*階の*が燃えています。消火をお願いします。」

必要に応じて

負傷者があったり、特殊なところに閉じ込められたり、高層階での火事・事故の場合などは、落ち着いて、消防車だけでなく救急車やその他特殊車の要請をすること。(警察にも同時に連絡が通じます。)

平成7年度 緊急防災組織表



本校及び避難所への支援団体名・個人名及び支援内容（順不同）

NO. 1

	支援団体名	人数	支援内容	住 所	電 話
1	代々木アニメーション学院		見舞い	151 東京都渋谷区代々木1-57-3	
2	情報処理開発協会		見舞い	540 大阪府中央区天満橋京町2-6	
3	神戸経理コンピュータ学院		見舞い	650 中央区琴ノ緒町5-7-1	
4	大阪青山短期大学		見舞い	562 大阪府箕面市新稲2丁目11-1	
5	(株)ワークステーション		見舞い	530 大阪市北区南森町2-2-10 大阪ビル5F	
6	(株)福武書店大阪支社		見舞い	532 大阪市淀川区西中島5-5-15	
7	(株)ネオス		見舞い	650 中央区加納町6丁目2-1	
8	学習研究社		見舞い	145 東京都太田区上池台4-40-5	
9	日本電気(株)神戸支店		見舞い	650 中央区東町126番地 神戸ビル7F	
10	教研出版(株)関西本社		見舞い	604 京都市中京区烏丸九太町西入ル	
11	吉本旭汎（麒麟様）		部活動資金	331 埼玉県大宮市日進町 3-767-10	048-663-6134
12	山口青年会議所	15	炊出し（とん汁、餃子）2回	753 山口市中市町1-10 山口ビル3F	0839-22-7646
13	(株)弥勒の里	3	ガスこんろ等	720-04 広島県沼隈郡沼隈町大字中山南25	0849-88-0001
14	竹本稔	1	カイロ・ティッシュペーパーなど	675-01 加古郡播磨町野添3-126-2	
15	熊谷組東京支店	5	校地・校舎の点検・診断	162 東京都新宿区揚場町2-14	
16	三木市婦人会	8	炊出し（5回、1/18夕他）	1月～3月	
17	田島燃料(株) 讃岐 郡新	1	風呂一式（お・釜・ガスボンベ）	350-13 埼玉県狭山市入間川1-16-30	
18	(有)梅その 徳島 郡新	15	炊出し（ぜんざいなど）	634 奈良県橿原市久米町33-1	
19	木ノ実保育園	10	炊出し・下着類	577 東大阪市岸田堂西1-6-37	
20	香川青年会議所	12	炊出し（讃岐うどん）	761 香川県高松市	
21	日赤（岐阜大森支部）	5~12	医療（2/24）1日間		
22	日赤（福岡支部）	5~12	医療（2/4、7、15~17）5日間		
23	日赤（長崎支部）	5~12	医療（2/8~10）3日間		
24	日赤（山口支部）	5~12	医療（3/9~12）4日間		

人数は1日当りの数を示す

	支援団体名	人数	支援内容	住 所	電 話
25	日赤 (岡山支部)	5~12	腫 (1/25~2/2, 3/1~4) 13日間		
26	日赤 (島根支部)	5~12	医療 (1/24) 1日間		
27	日赤 (広島支部)	5~12	医療 (2/3, 3/13~15) 4日間		
28	日赤 (大分支部)	5~12	医療 (2/6) 1日間		
29	日赤 (沖縄支部)	5~12	医療 (2/18~23) 6日間		
30	日赤 (熊本支部)	5~12	医療 (2/5, 11~14) 5日間		
31	日赤 (横浜支部)	5~12	医療 (2/25~28) 4日間		
32	日赤 (高知支部)	5~12	医療 (3/5~8) 4日間		
33	神戸西市民病院	2~4	腫 (腫瘍) 1/21~3/29 3/16		
34	神戸市医師会		腫 (3/25~29 火土14時~腫瘍)		
35	兵庫区医師会		医療 (3/14~16) 3日間		
36	東京都保健所保健婦	2	腫・腫瘍・腫 (2/1~3/29)		
37	京都大医療班		医療 (1/20~23) 4日間		
38	神戸市柔道接骨医	3	打撲・骨折・捻挫治療 (3回)		
39	神戸市鍼灸師	5	肩こり等治療 (3回)		
40	神戸大医務 (保健医)		心のけけアー		
41	河合医院 (校医)		カルテ・医薬品・聴診器提供	652 兵庫区下沢通	
42	P.L.教団尼崎支部	5	石油ストーブ10台寄贈・炊出し	660 尼崎市東難波町	
43	小藤末子 一行	15	マッサージ (3/1~7/13)	651-11 北区鈴蘭台	
44	ゆうゆうの里	一同	入浴サービス (2/1~2/28)、炊出し	2/21うどんぜんざい 北区鳴子	
45	連合兵庫	10	入浴サービス (3回)		
46	大阪ガス	2	シャワーサービス (3/20~4/15)	2人×25日	
47	福岡市、川崎市、横浜市		給水車 (〜3月9日)		
48	吉田勝恵商店		補聴器無料貸出	652 兵庫区下沢通	

人数は1日当りの数を示す

	支 援 団 体 名	人数	支 援 内 容	住 所	電 話
49	津村富代	10	炊出し(5回)	(くらしをぬかすセミナー) 篠	
50	山本リンダ	5	歌		
51	新潟民謡愛好会	20	民謡・踊り(5/7(日))		
52	みどり病院	10	炊出し	651-21 西区枝吉1-16(中田雅久)	928-1700
53	PL教団鯖江支部	30	炊出し(にぎり、汁、チャー)	916 福井県鯖江市糺町40-18(三賢館)	0778-52-1696
54	NHK		テレビ2台、ラジオ4台(貸与)		
55	毎日放送		文字放送テレビ1台(貸与)		
56	加ト吉	10	炊出し(さぬきうどん)		
57	理研	10	栄養剤		
58	県おたけり協会	3	心のケア		
59	三菱電機労組(福山)		炊出し(ブタ汁500g、2/24)		
60	北研西日本営業所	10	炊出し		
61	三木青年会議所		入浴サービス(FRバー、バス)		
62	大阪屋	4	炊出し(お好焼2/12(日))		
63	大河内町社会福祉協議会		炊出し(どん汁、3/10、4/5の2回)	679-31 神崎郡大河内町寺前140-3(御膳)	0790-34-1088
64	美方青年会議所		炊出し(3/14、2/12)、お餅贈	669-68 美方郡温泉町七釜107-1(郷土館)	0796-82-4784
65	中井 秀夫	2	理髪2回(2/20、21)	422 静岡市見瀬37-5(カットサロンスター)	054-286-2932
66	土屋 収	2	理髪2回(2/20、21)	420 静岡市安西4丁目102(理容の土屋)	054-253-5730
67	兵庫信用金庫	6	炊出し(たい焼)	670 姫路市北条口3丁目27(姫路親睦)	0792-82-1255
68	湊川伝導館	20	炊出し	652 兵庫区	
69	東海屋		炊出し(さつまあげ)	761-01 香川県高松市屋島東町1121-1	0878-44-1112
70	神戸外大学生		炊出し(コーヒー)		
71	ネスル日本	4	衣類・食料等(バツ2回) 2回	650 中央区御幸通7-1-16	251-6161

人数は1日当りの数を示す

	支援団体名	人数	支援内容	住所	電話
72	西下文盛(自由業)		ボランティア	213 川崎市高津区梶が谷3-2-19	
73	田中 昭夫		ボランティア	610-01 京都府城陽市寺田大谷26-57	
74	小林 英憲		ボランティア	270-11 千葉県我孫子市新木3088-26	
75	赤津 悦夫(自営業)		ボランティア (1/18~)	177 東京都練馬区石神井台7-22-37	
76	澤田 智子(主婦)		ボランティア	651-21 西区学園西町5-8-1、522-102	
77	宮永 文		ボランティア	675 加古川市加古川町篠原町4-87-7	
78	宮永 由佳		ボランティア	同上	
79	柴崎 幸次		ボランティア	562 大阪府箕面市新稲7-2-11	
80	小牟田 治良(傭員)		ボランティア	615 京都市右京区西京極阪町1-7-202	
81	大石 正彦(会社員)		ボランティア	651-22 西区美賀多台1-8-201	
82	滝沢 清次		ボランティア	251 神奈川県藤沢市藤沢1-3-10	
83	浜口 典子		ボランティア	151 東京都渋谷区笹塚1-48-19-1104	
84	井澤 伸太(学生)		ボランティア	673 明石市朝霧北町1120-23	
85	宮本 芳行(元教員)		ボランティア	173 東京都板橋区仲宿29-3	
86	読売新聞社	10	法律相談		
87	お菓子の絹笠	1	食料品(3/14)	655 垂水区舞子台8-2-7	
88	金田栄二		励ましの手紙	960 福島市大明神4-3-505	
89	葛西久枝		励ましの手紙	073 北海道滝川市有明町4-2-3-402	
90	岡野かおり		励ましの手紙	School of Asian Studies, La Trobe University, Melbourne, Bundoora, Victoria, Australia 3083	
91	Sizuko Tomoda (友田静子)		義援金	Modern Languages Department Central Connecticut State University 1615 Stanley Street New Britain, CT 06050 U.S.A	
	Mrs. Kanako Buck Mrs. Mary Lyons		励ましの手紙300通超 ↓ Simsbury High School Hartford Public High School	34 Farms Village Road Simsbury, CT 06070 55 Forest Street Hartford CT 06106	FAX 203-832-3033

注1) 人数は1日当りの数を示す

注2) 地震当初の混乱のため上記の表に記載されていない支援者があります。慎んでお詫びいたします。なお、本校生徒ボランティアは省略しています。